

「3 ステージで構成」

海(Lv.1) 非言語交流
→ハードルを下げる



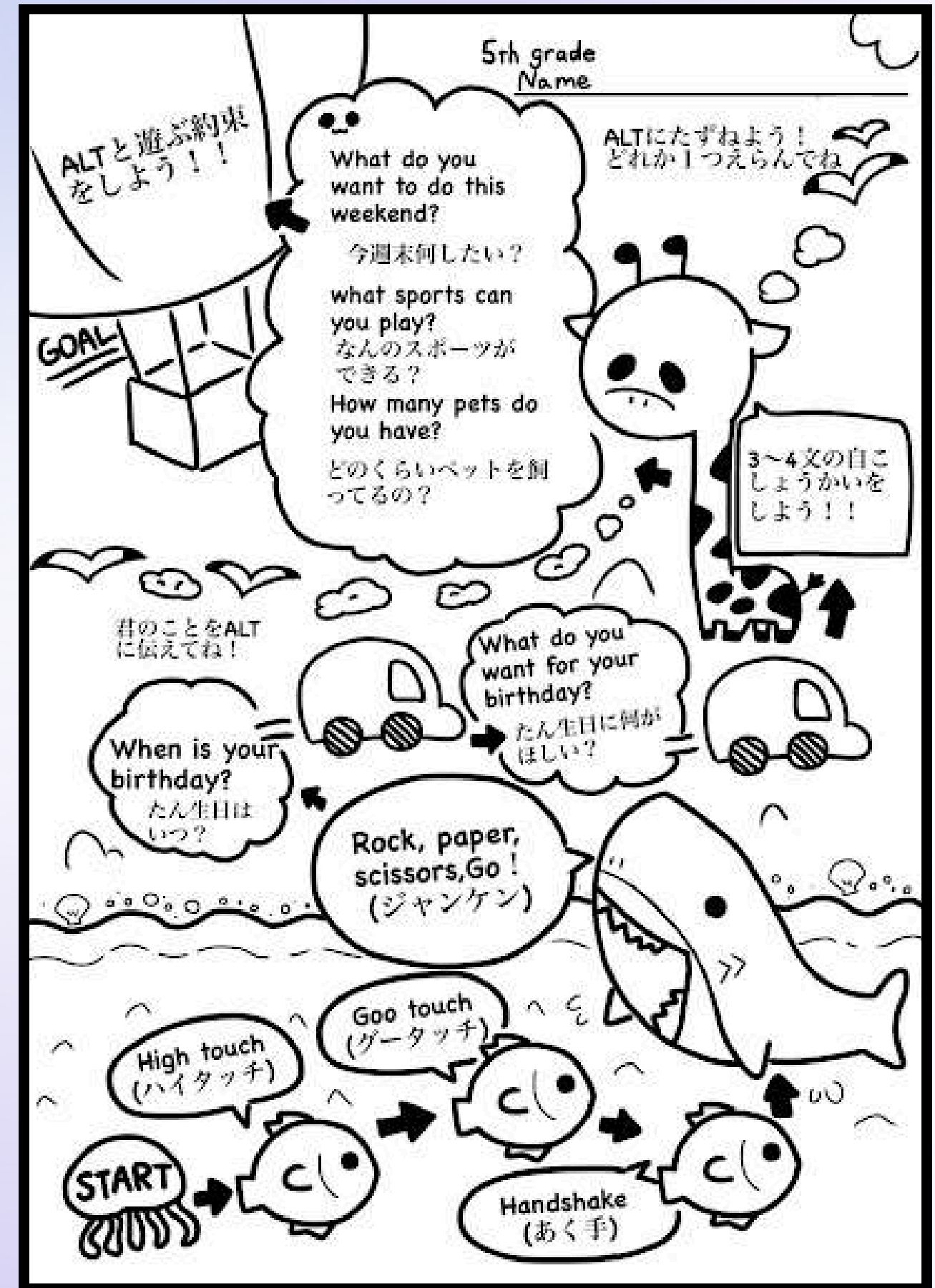
「3 ステージで構成」

陸(Lv.2) 自己紹介

→教科書例文

海(Lv.1) 非言語交流

→ハードルを下げる



「3 ステージで構成」

空(Lv.3) ALTと遊ぶ約束

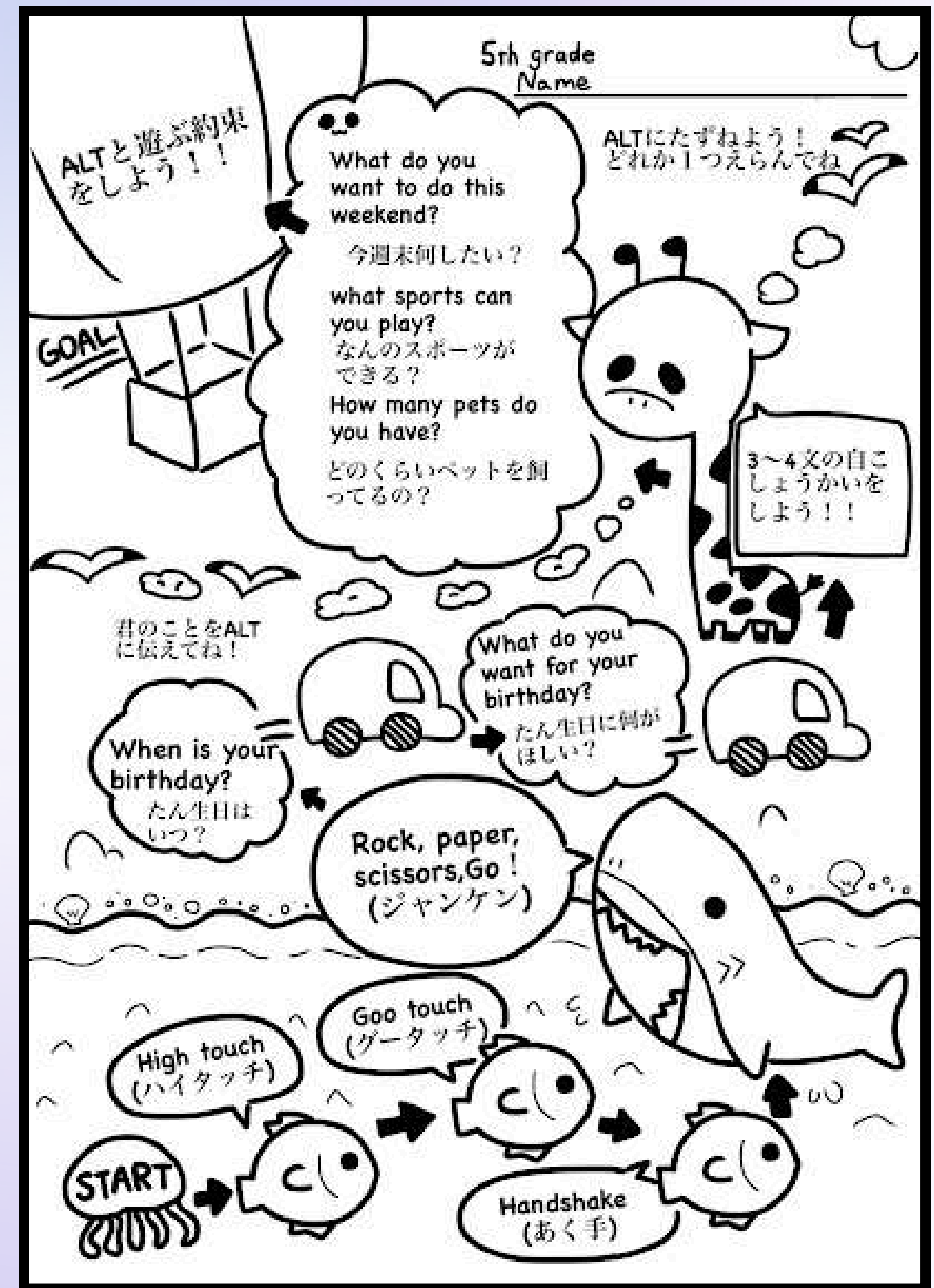
→交流の継続

陸(Lv.2) 自己紹介

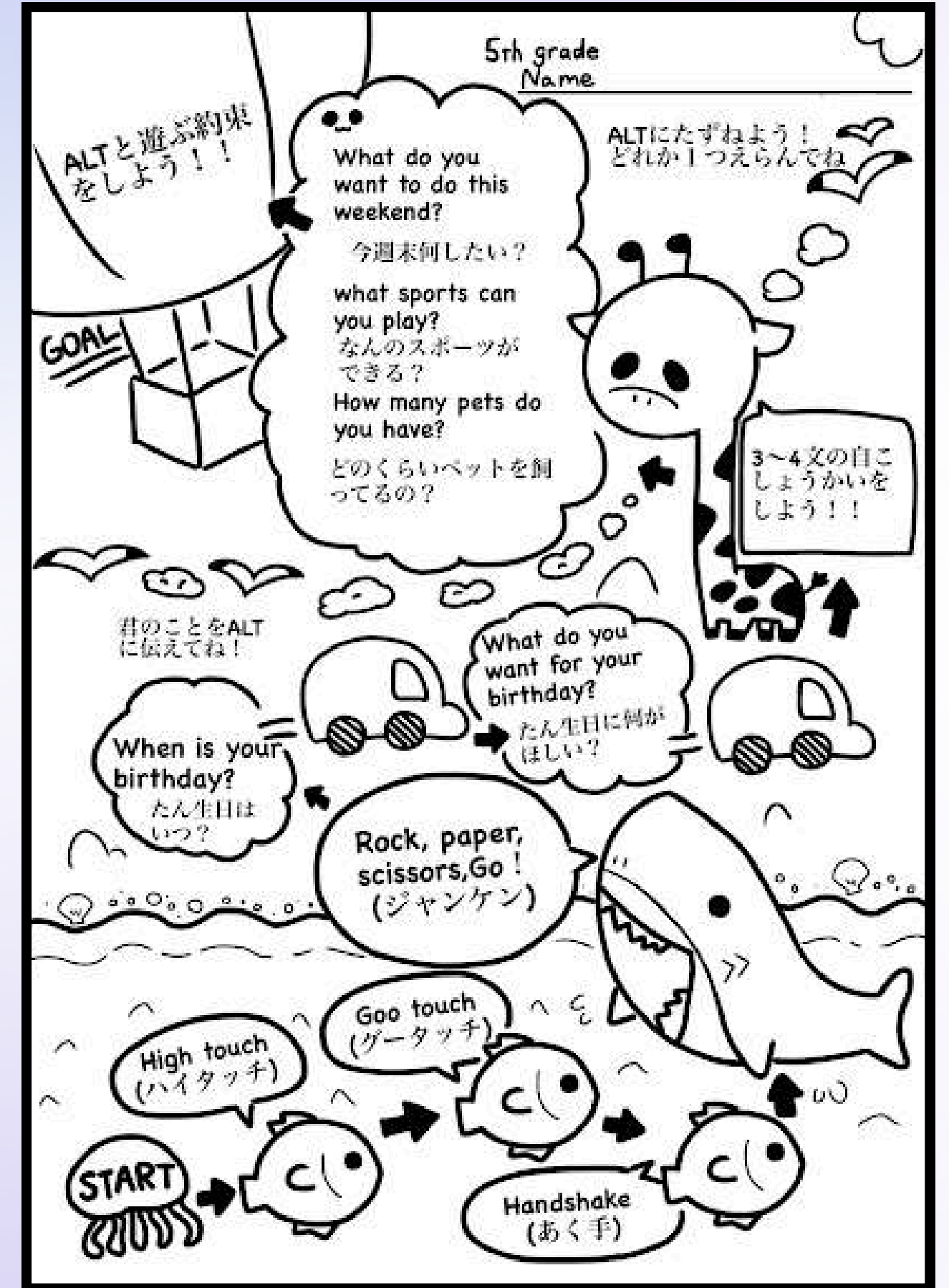
→教科書例文

海(Lv.1) 非言語交流

→ハードルを下げる



A large collection of colorful, hand-drawn cards and tags, many featuring cartoon characters and objects, displayed on a wooden surface. The cards are arranged in rows, with some hanging from a string. The tags are small, oval-shaped, and feature various designs like a guitar, a cat, a panda, a snake, and a wolf.





(休み時間)

インタビュー

(児童・小学校教師・ALT)

ALTスタンプリー
の
感想・変容





(児童)

景品が嬉しかった！

児童が自発的に行った！



(教師)

授業も活発になった！



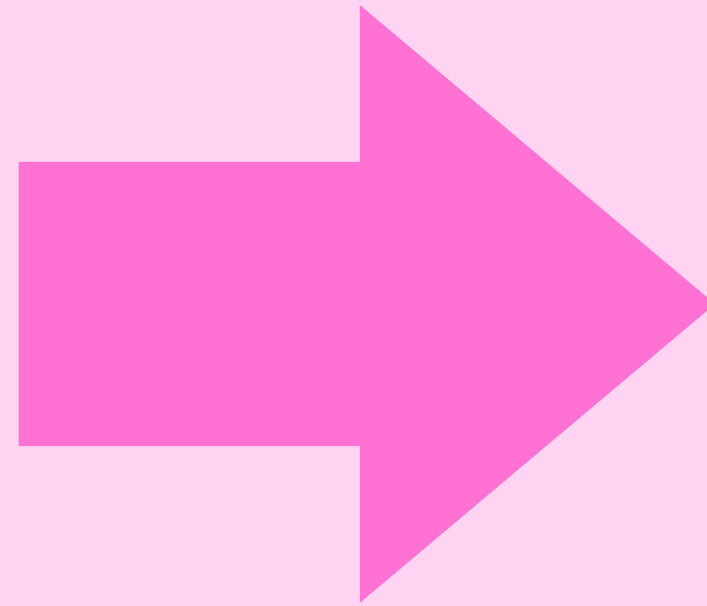
(ALT)

【ALTとの会話に不安を感じますか】

アンケート(189人)

実施前

77人

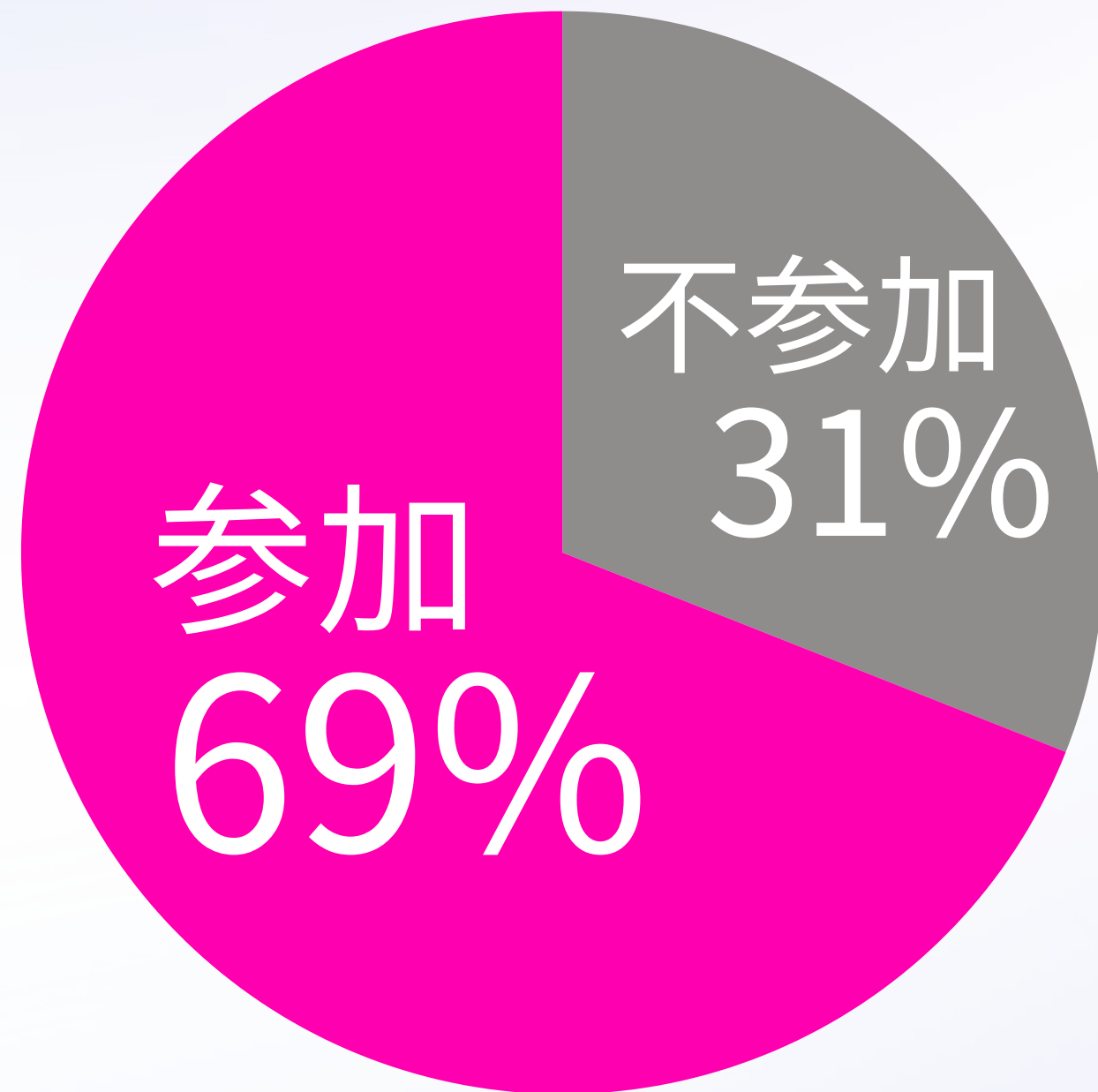


実施後

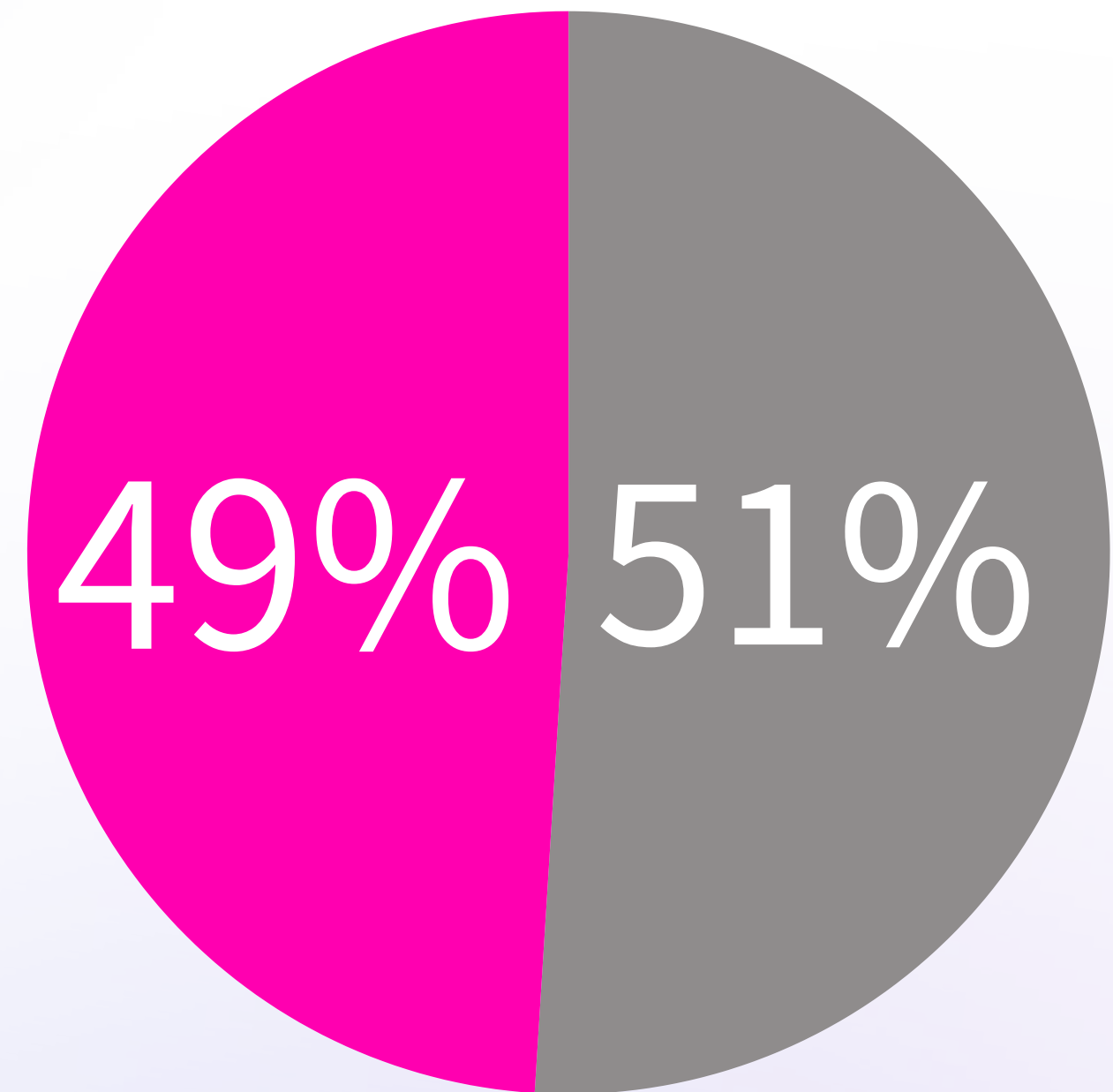
60人

-17人

(課題)



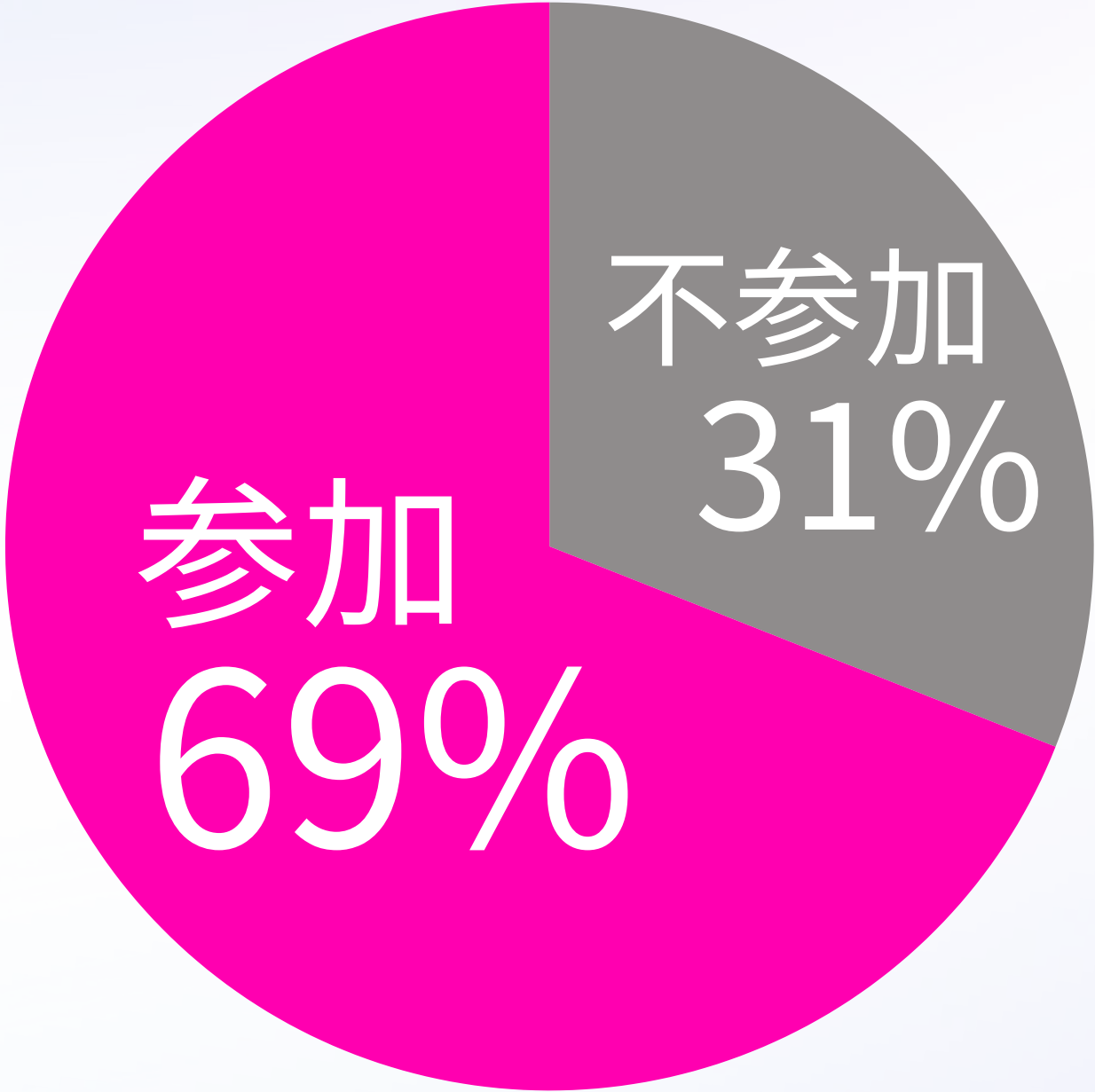
5年生94人



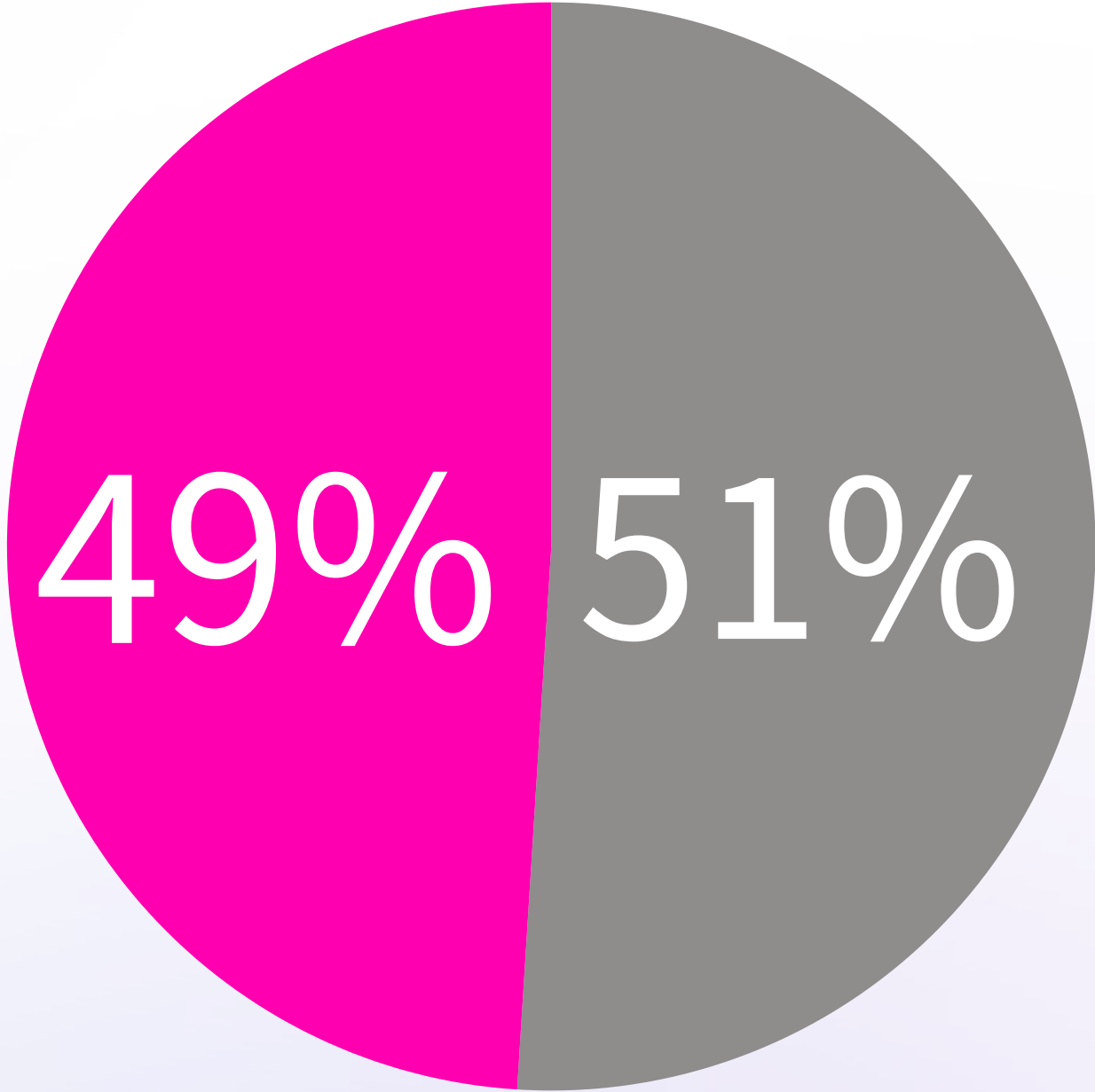
6年生105人

A学校 ALTスタンプラリー個別記録

(課題) 忙しく参加できなかった児童

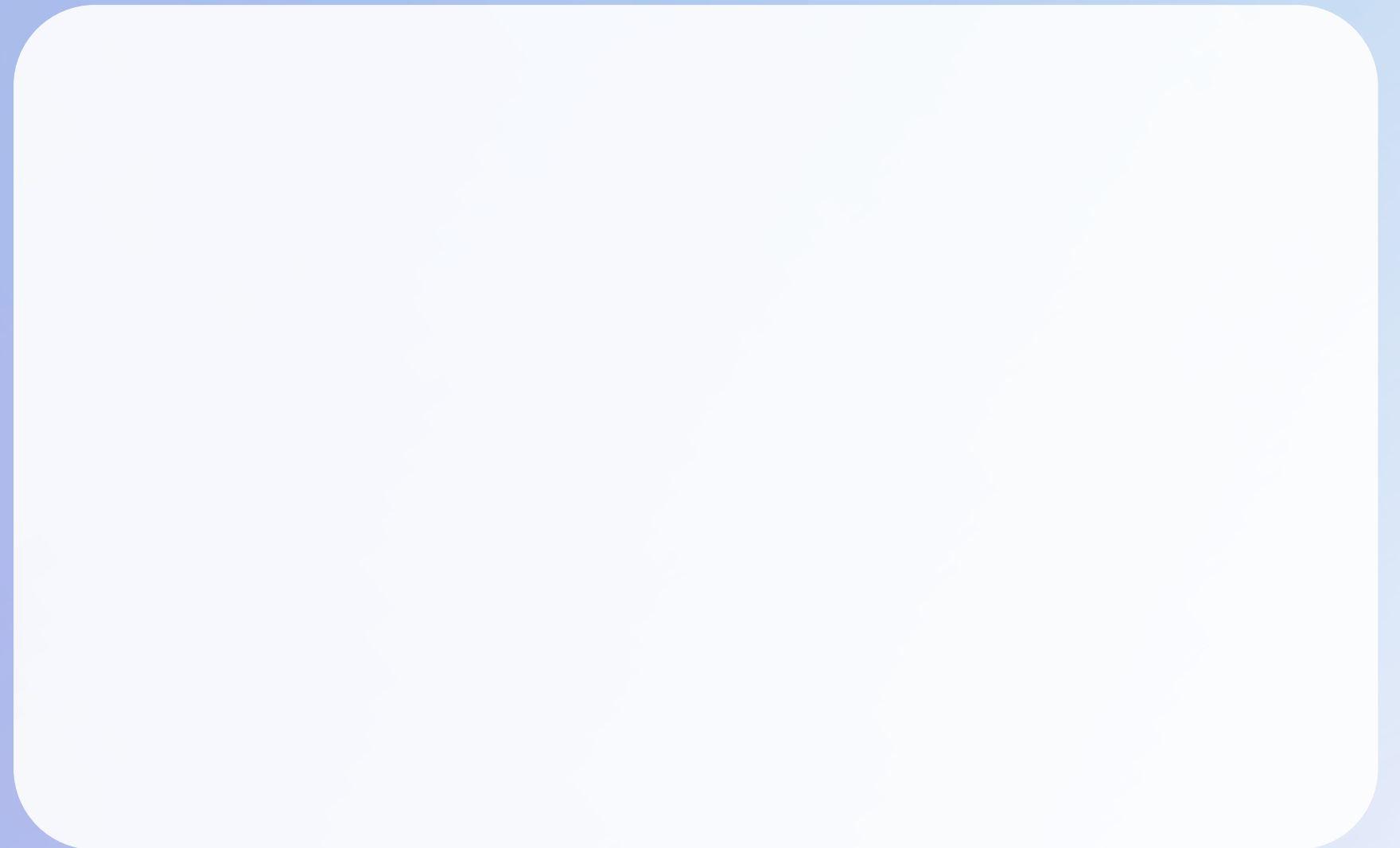
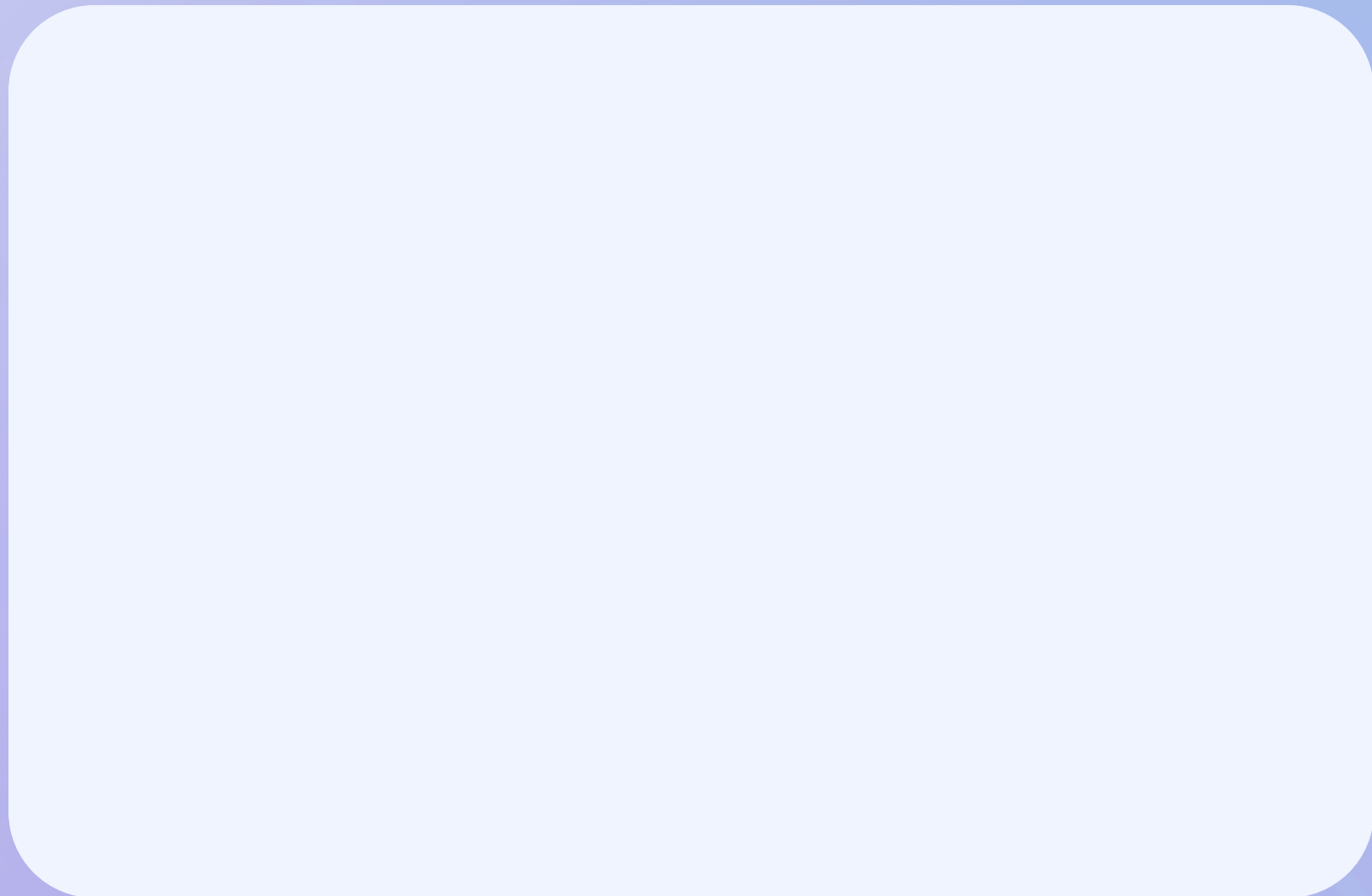


5年生94人



6年生105人

「ALTスタンプラリー」



「ALTスタン普拉リー」

A小学校

○11月28日～12月12日

(毎週木曜日)：3回

○5・6年生199人

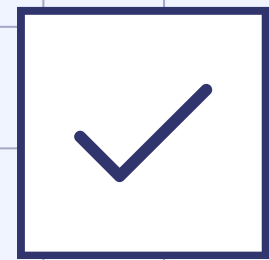
B小学校

○1月17日～1月31日

(毎週金曜日)：3回

○5・6年生92人

(参加率を増やすには?)



景品が好評だった

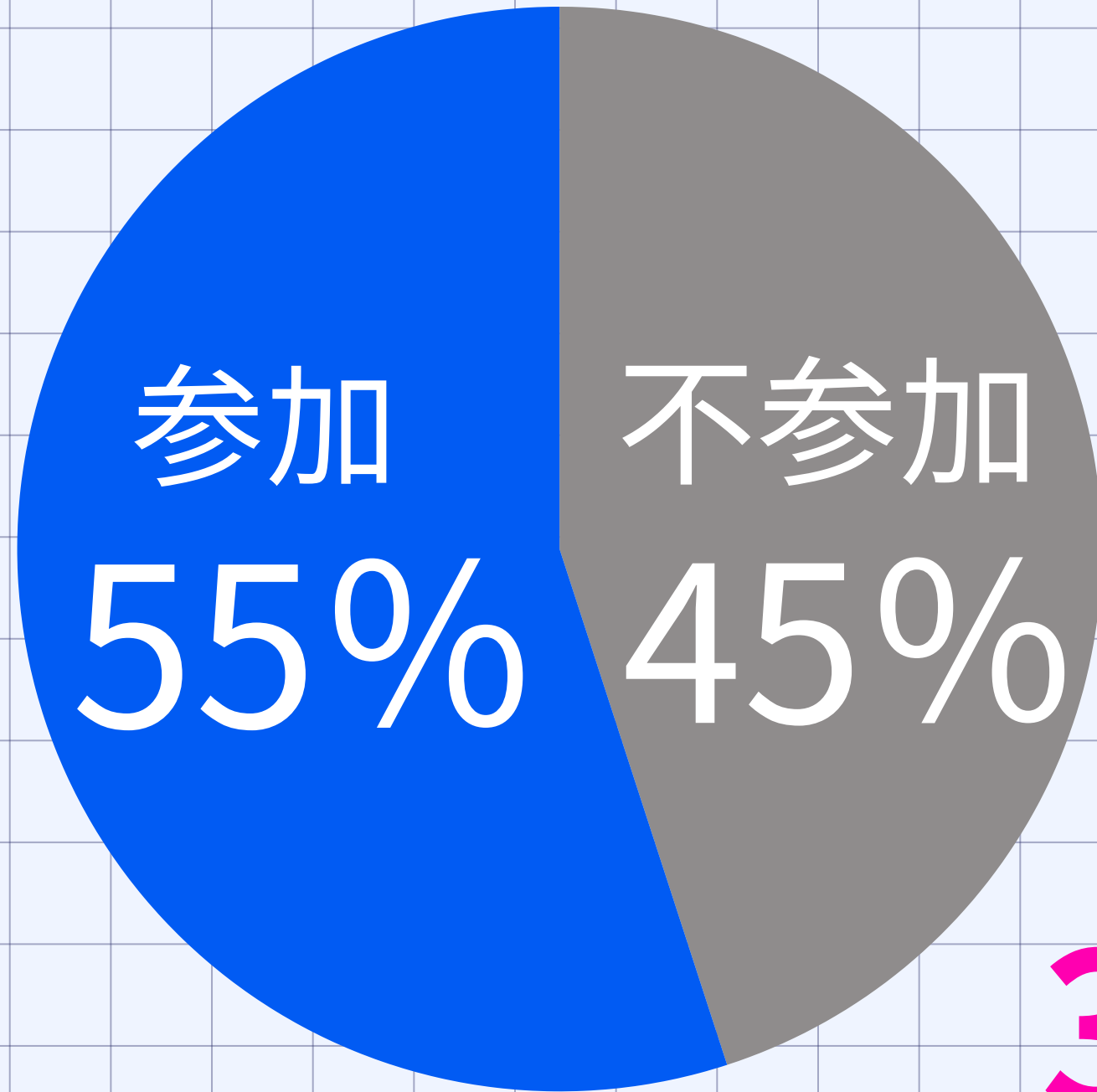
→Lv.1から景品を渡す



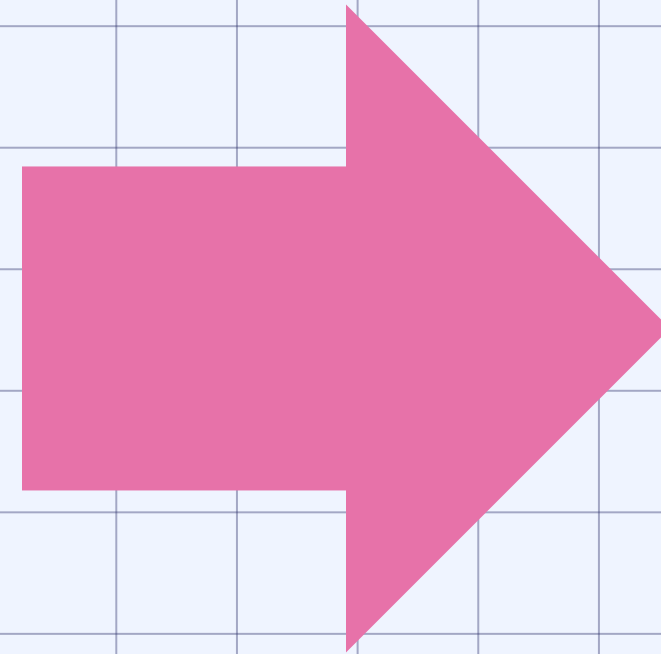
児童が忙がしすぎた

→忙しい時期を避ける

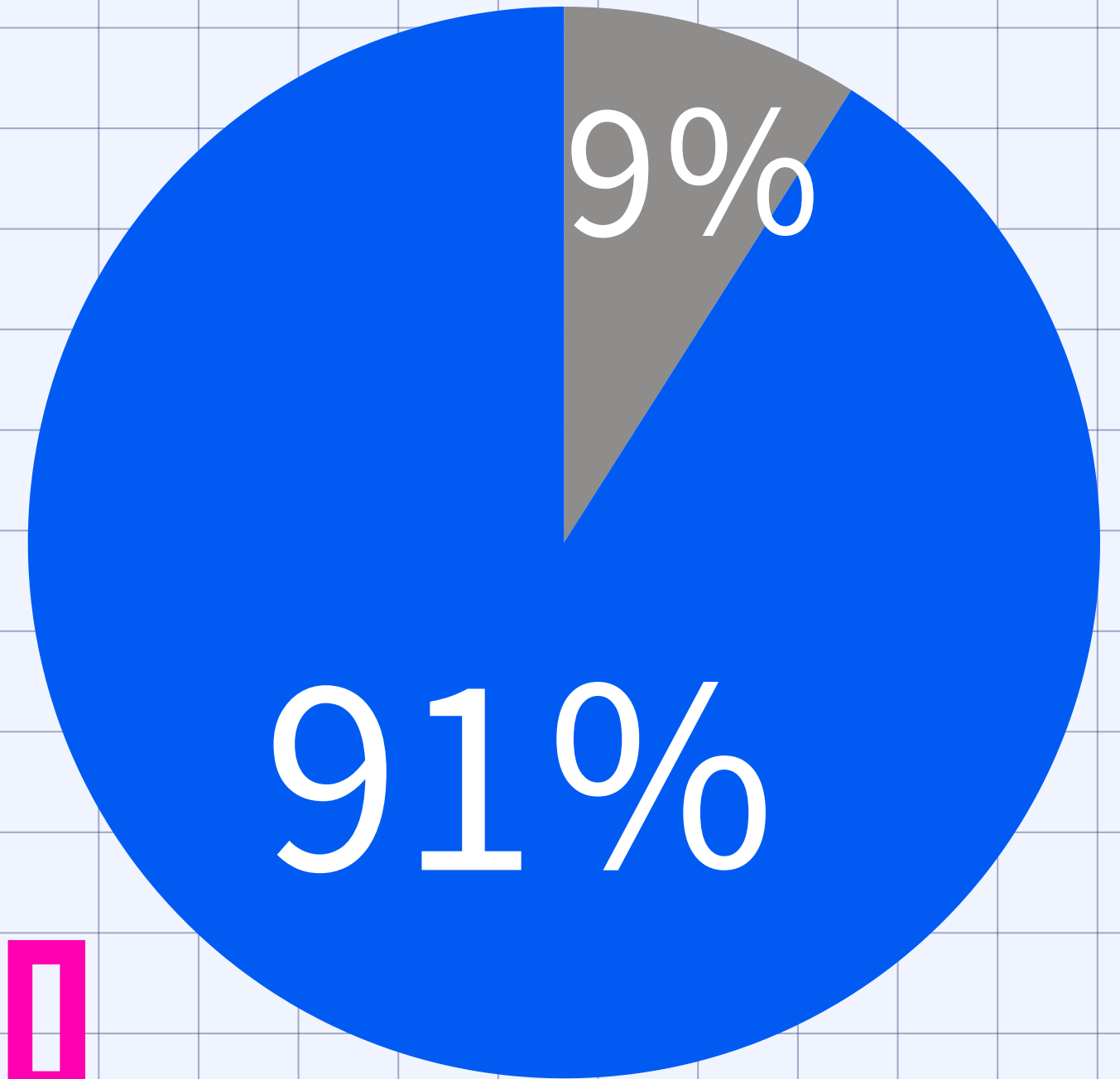
参加率



A小学校



36%増加

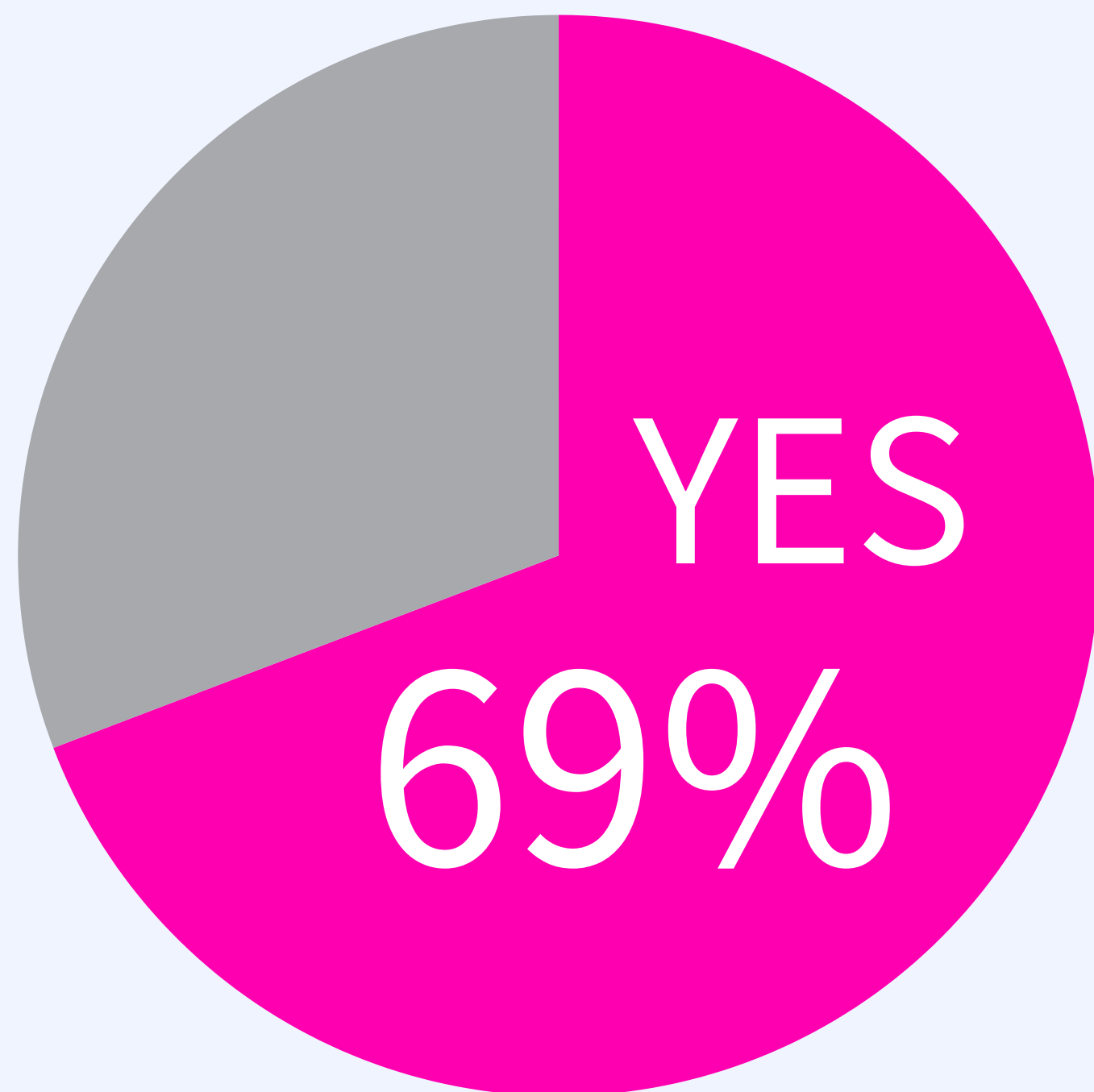


B小学校

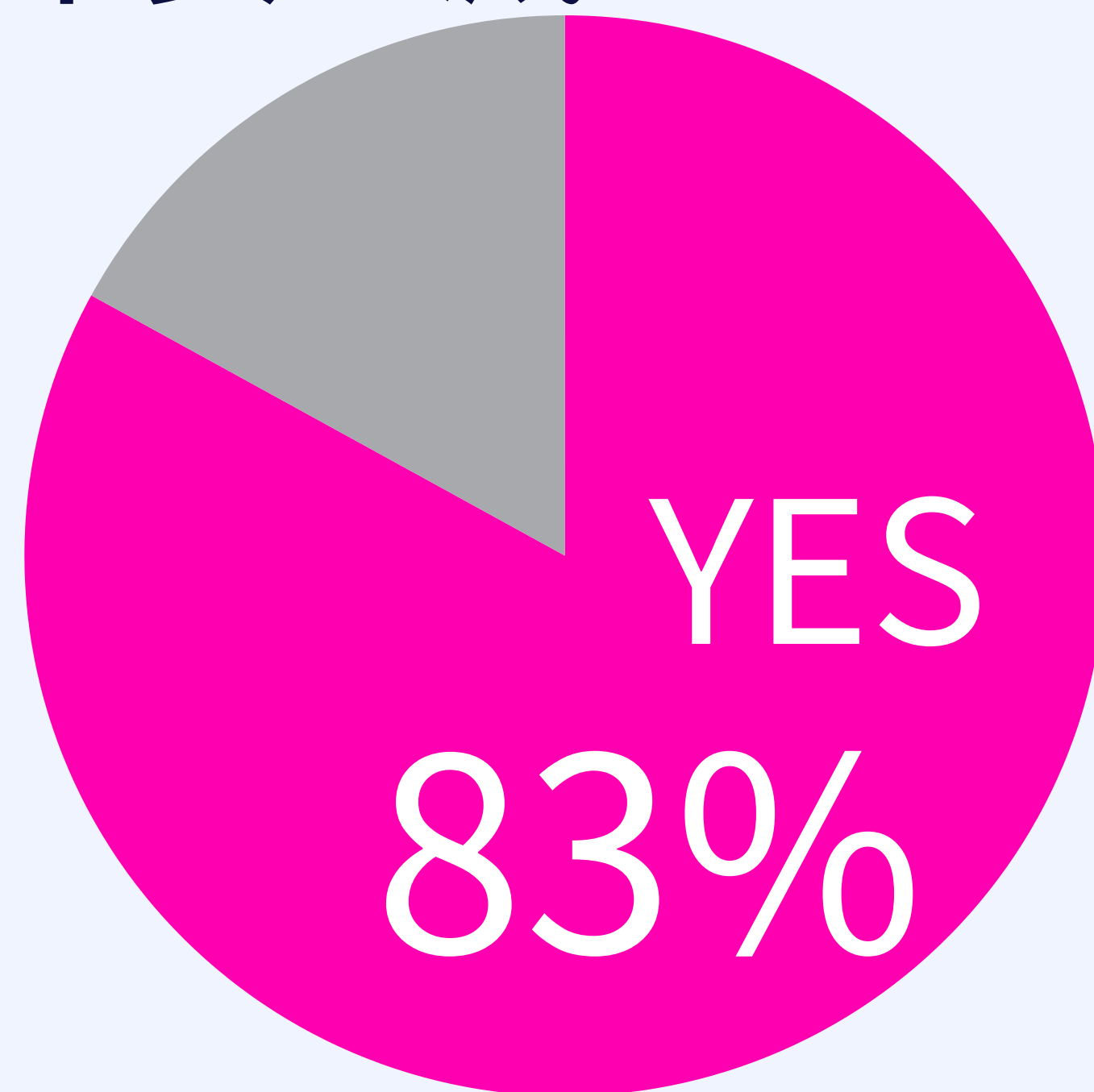
ALTスタンプリー

個別記録

これからも
声をかけたいか？



ALTとの会話の
不安は減ったか？



B校児童83人

問い

どうすれば福井県内の
小学校でALTと児童の交流を
増やすことが出来るか

(

)

(

)

(

)

「

」

ALTと交流のハードルを下げる

()

() ()

「 」

ALTと交流のハードルを下げる

（会話を通して楽しみながら英語を学ぶ）

（ 苦手意識の解消 ） （ ）

「 」

「ALTスタン普拉リー」

ALTと交流のハードルを下げる

（会話を通して楽しみながら英語を学ぶ）

（ 苦手意識の解消 ） （ 学習意欲の向上 ）

「
」

ALTと交流のハードルを下げる

（会話を通して楽しみながら英語を学ぶ）

（ 苦手意識の解消 ） （ 学習意欲の向上 ）

「学力向上」

「ALTスタン普拉リー」

ALTと交流のハードルを下げる

（会話を通して楽しみながら英語を学ぶ）

（ 苦手意識の解消 ） （ 学習意欲の向上 ）

「学力向上」

(参考文献)

- 令和4年度英語教育実施状況調査．「【都道府県別】ALT参画人数（小中高）及び小学校」文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20240509-mxt_kyoiku01-000035833_5.pdf (参照 2024-6-19)
- 北海道教育大学 萬谷隆一（2019）
「北海道教小学校英語における担任教師・専科教師についての教師の意識調査」
北海道教育大学学術リポジトリ 70-1-kyoiku-15.pdf （参照 2024-6-26）
- 萬谷 隆一（2021）
「英語における望ましい指導者についての意見と関連要因についての調査」
小学校英語教育学会誌 J-STAGE https://doi.org/10.20597/jesjournal.21.01_70 （参照 2024-6-26）
- 福井県教育総合研究所 教科研究センター 小中学校教科研究課 木村哲彦（2021）
「福井県における英語教育の強み－県外派遣教員から見た福井県の英語教育－」
[fukui-c.ed.jp/https://www.fukui-c.ed.jp/uploads/2021/12](https://www.fukui-c.ed.jp/uploads/2021/12) （参照 2024-9-18）



資料・先行研究

「福井県における英語教育の強み」

fukui-c.ed.jp/[https://www.fukui-c.ed.jp](https://www.fukui-c.ed.jp/uploads/2021/12) › uploads › 2021/12

- ・ 福井県では研修制度や ALT の活用を生かした支援が、質の高い英語教育を担ってきた
- 小学校の外国語教育において、福井県では従来どおり、HRT が T1 として授業を主で担当している。しかしながら、文部科学省は英語専科教員を配置していく方針を示し、できる限り最も大切な入門期の英語教育の指導を専門性のある教員が担うようにしていこうと考えているようである。しかし、来年度から専門性のある専科教員がすべての小学校に配置されることは不可能であり、福井県のような指導体制が当分の間、必要とされる。加えて、新年度から新学習指導要領が本格実施される今、小・中学校の連携強化が喫緊の課題である。小学校教員が中学校・高校の英語教員免許を持っている割合は全国 5.9% に対して、福井県では 9.2% と高い。また、小・中学校間での人事異動が毎年異動者の 2 割程度行われる福井県では、中学校で英語を教えていた教員が小学校で英語専科として外国語活動・外国語科を教えたり、または英語専科教員が中学校に移動して英語を教えたりすることもある。このような小中間の人事交流が系統立った指導につながっているのは言うまでもない。これは他県にはまねできないことである。このような教育文化がすでに根付いていることは、福井県の英語教育の大きな強みである。

専科教師の割合 小学校 英語

福井県 9.2%

福井県教育総合研究所教科研究センター小中学校教科研究課

「小学校英語における担任教師・専科教師についての 教師の意識調査」

北海道教育大学学術リポジトリ <https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/70-1-kyoiku-15> (2019)

小学校英語教育で担任教師あるいは専科教師のどちらが指導すべきかについての小学校教師の意識を探究した調査である。小学校教師335名の質問紙調査から以下の点が明らかになった。1) 専科教員の英語指導を望む教員の数が担任教師の指導を望む教員の数より多いこと、担任教師が望ましい理由として、担任教師の児童理解と相互信頼、児童に合わせた指導を重視する理由が多かった。また専科教師が望ましい理由としては、英語力・専門的指導力を重視する回答、多忙感を理由とするものが多かったこと、2) 英語指導の経験年数が少ない教師に専科教員が望ましいと考える傾向があること、3) 英語が好き、自信があると考え教師ほど、担任教師が教えるべきと考えていること、4) 担任教師による英語指導を望む教師ほど、児童理解を重視する指導観を持つ傾向が伺われた。

小学校英語の指導体制は、担任教師、常駐の英語専科教師、巡回する英語専科教師、英語専門ではない一般教師、外部講師などとなっており、多くはそれらの教員種を併用する国が多い。しかし調査時において、担任教師のみが指導していると回答があった国は6か国のみであり、日本もそのうちに入っている。専科教師による指導が一般的な台湾・韓国（金2007）などと比して、わが国は担任教師による指導がほとんどを占めているのが現状

担任教師が望ましいと答えた人数は、図1に示すように、全体335名中、134名（38.6%）が担任教師が望ましいと答え、201名（57.9%）が専科教師が望ましいと答えた。

研究課題1) については、専科教師による英語指導を望む教員の数が担任教師による指導を望む教員の数より多いことが分かった。まず、専科教師が望ましい理由としては、英語力・専門的指導力を重視する回答、多忙感からの理由が多かった。前者については、積極的理由が主であり、後者に関しては積極的理由とともに消極的理由が含まれている。とりわけ後者の、専科教師を望む声の背景にある、小学校教師の消極的な意識や背景、状況を、建設的な視点から改善してゆくことが重要であろう。

次に、担任教師が望ましい理由として、担任教師の児童理解と相互信頼、児童に合わせた指導の観点から、担任教師の方が望ましいと考えている傾向があることが分かった。担任教師が望ましい理由として、児童理解や児童理解にもとづく指導の力が有力であったわけであるが、これについては、バトラー後藤（2005：189）の調査結果やSharpe（2001）の論考とも関連しており、小学校英語の指導者の資質として児童理解は見落とせない点であることが分かる。

研究課題2) について、まだ英語指導経験が少ない教師は、いまだ英語指導にまだ取り組んでいない、あるいは英語指導に慣れていない教師が多いということが考えられる。専科教師を望む教師のうちには、すでに英語指導経験が長い教師は別として、単に経験が浅いために、担任教師では教えられないと不安に思う教師もいることが考えられる。今後の検証を待たなくてはならないが、少なくとも、そうした教師の一部は、英語指導経験を積むことにより意見が変化する可能性もあり、研修を続け、実践の取り組みを支援することが今後とも重要である。

「小学校英語における望ましい指導者についての意見と 関連要因についての調査」 - J-Stage

https://www.jstage.jst.go.jp/article/_pdf/-char

萬谷 隆一 北海道教育大学札幌校 (2021)

1) 専科・担任・TTのうち，担任単独の指導よりも TT がより支持された

質問用スライド

文部科学省R4全国学力学習状況調査

授業で英語を用いた言語活動を行っている

学校の生徒ほど英語の正答率が高い

英語を使う言語活動（話すこと等）を行っている学校の生徒は英語が好きな生徒は2倍以上多い

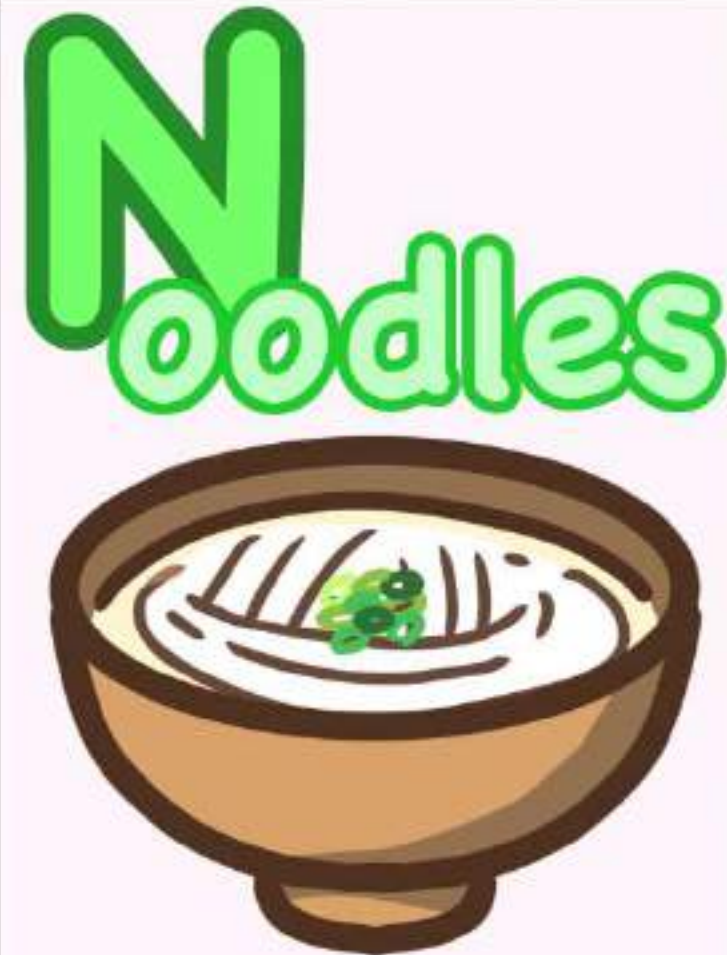
（中学生）

5年



6年



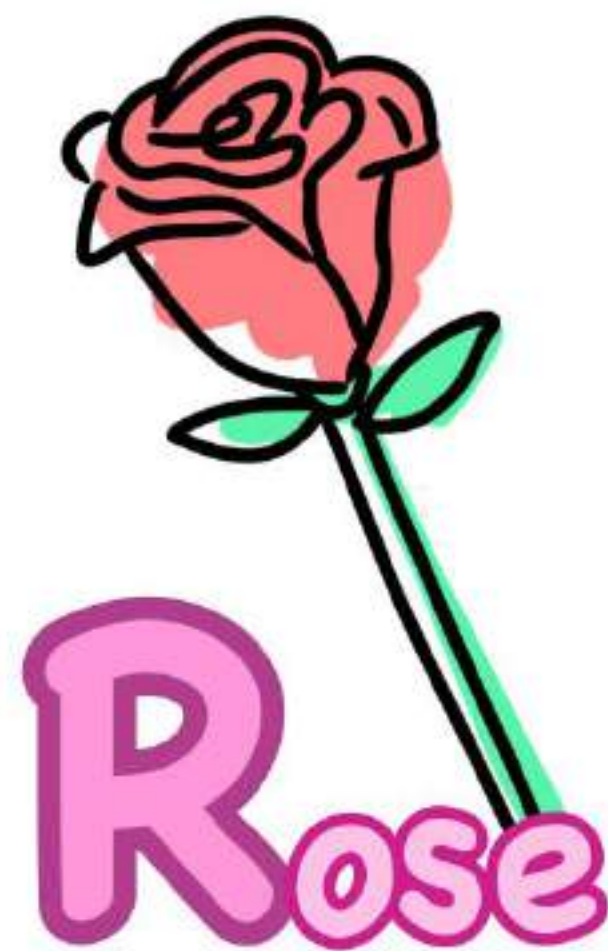
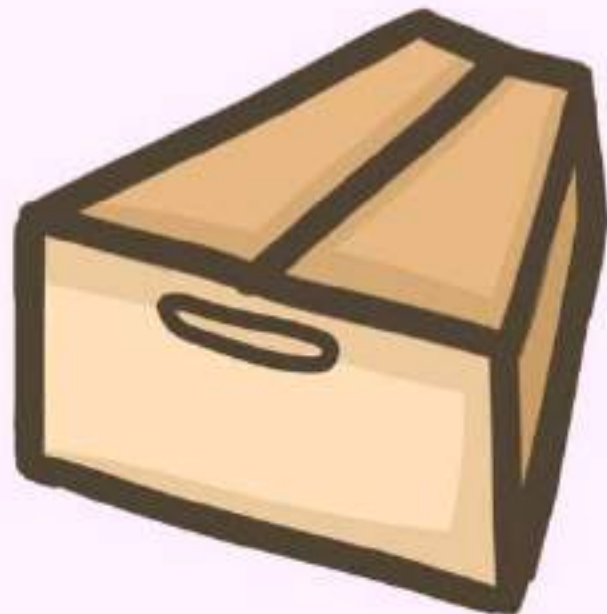




Zebra

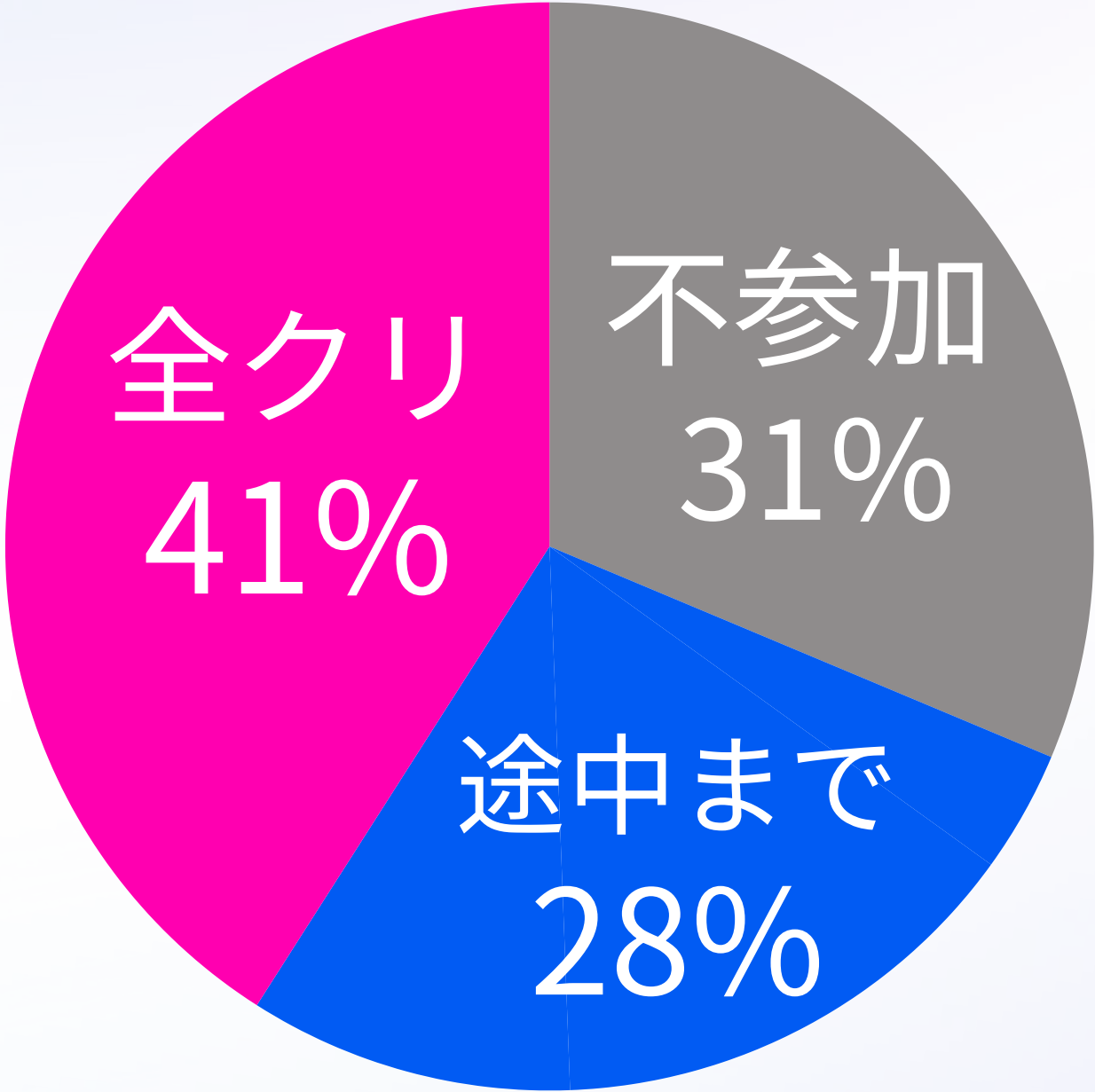


box

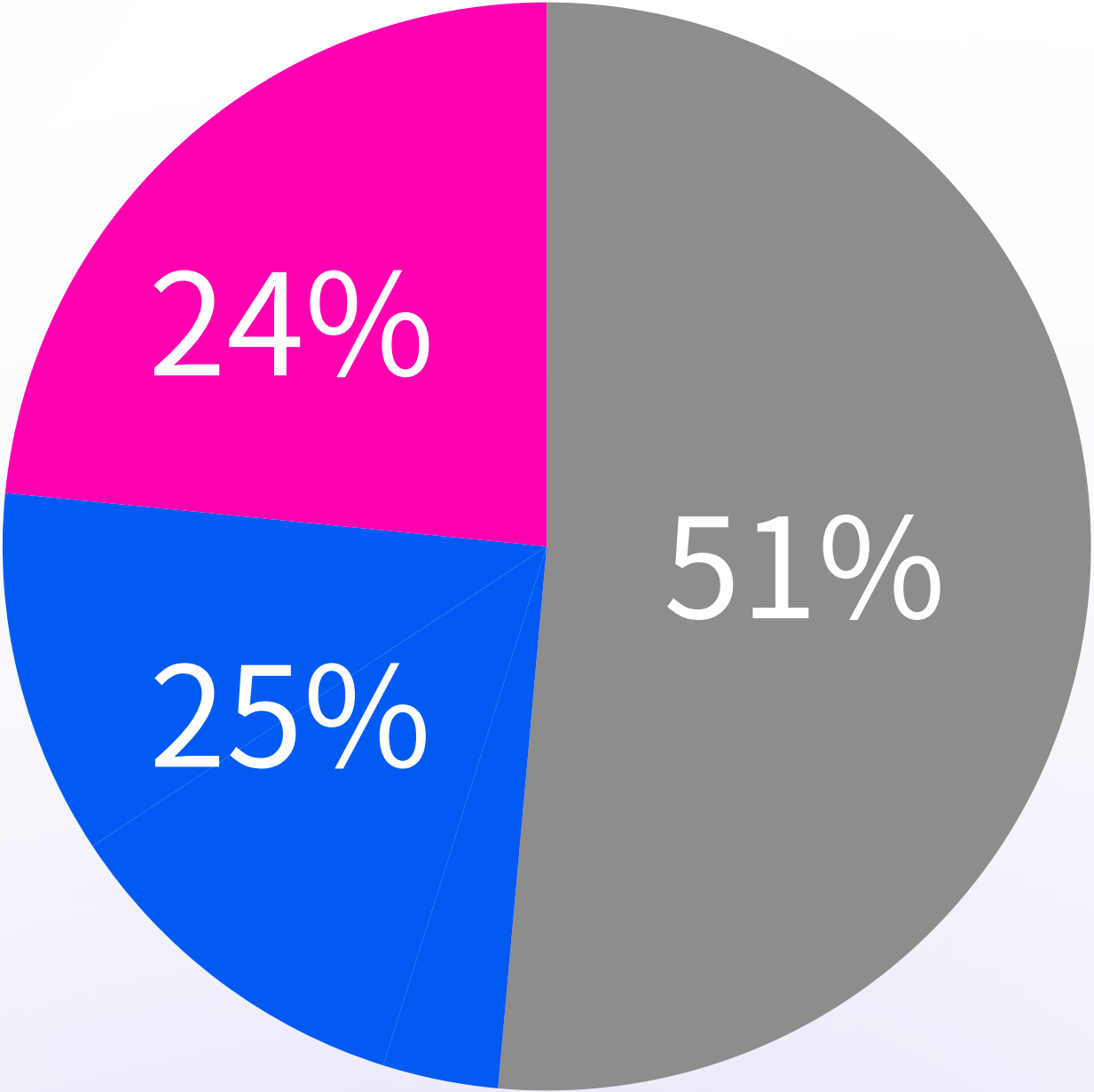


質問

(課題) 忙しく参加できなかった児童

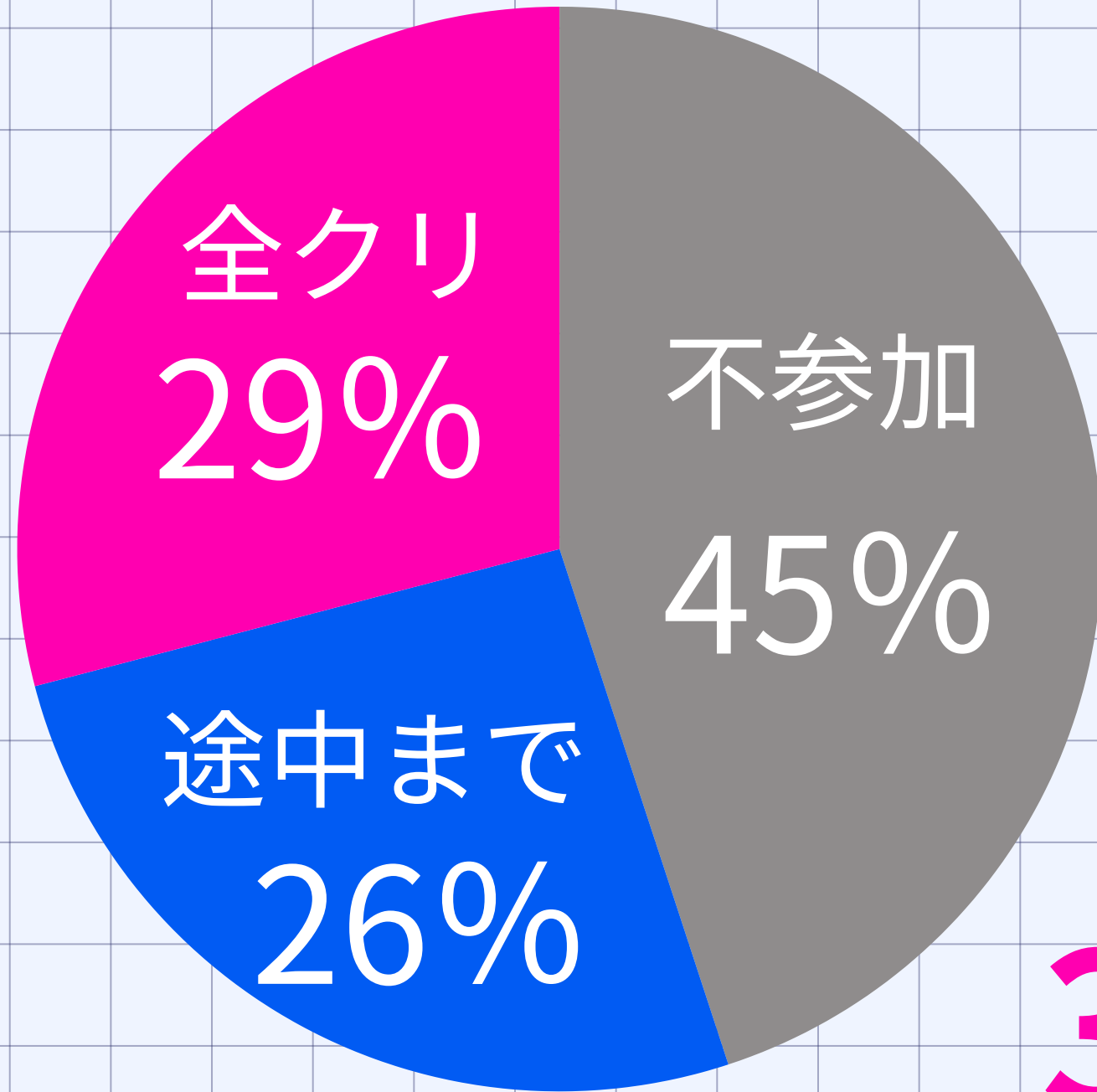


5年生94人

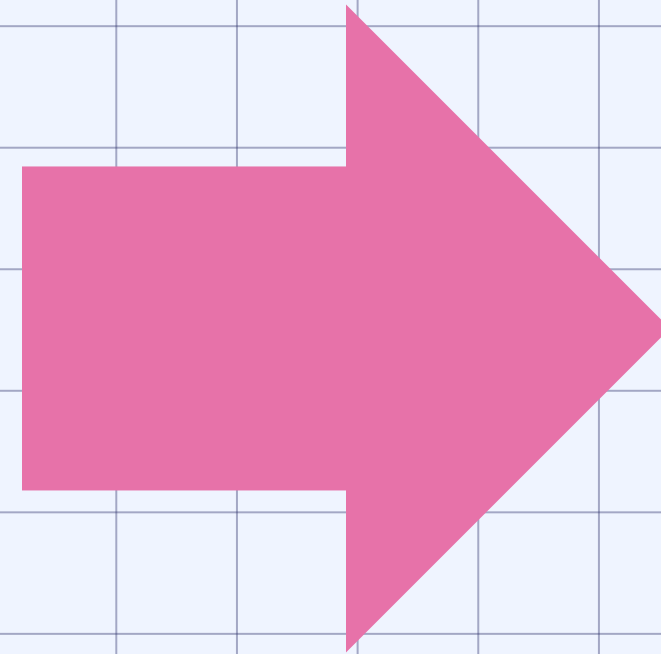


6年生105人

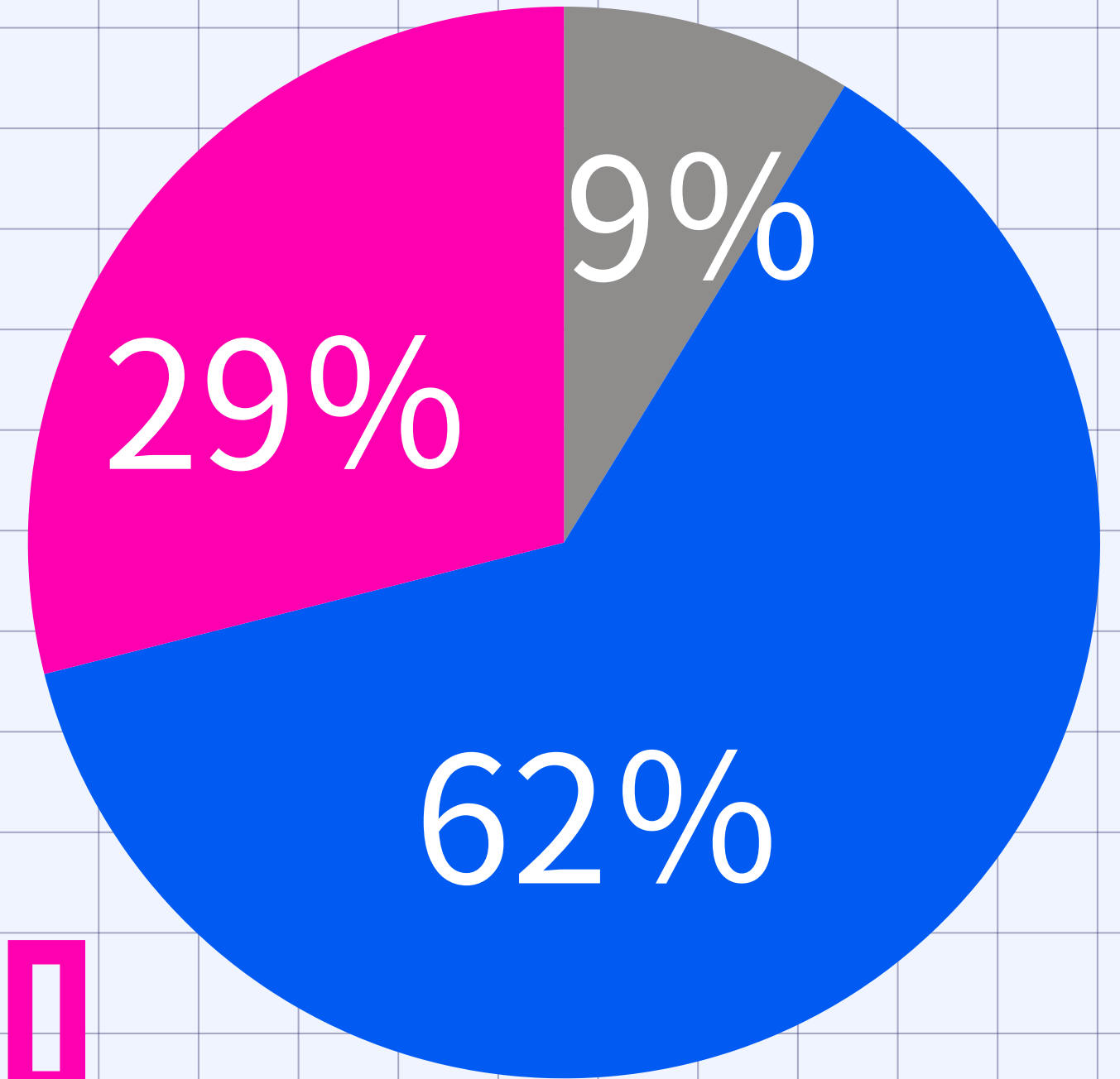
参加率



A小学校



36%増加



B小学校

ALTスタンプリー

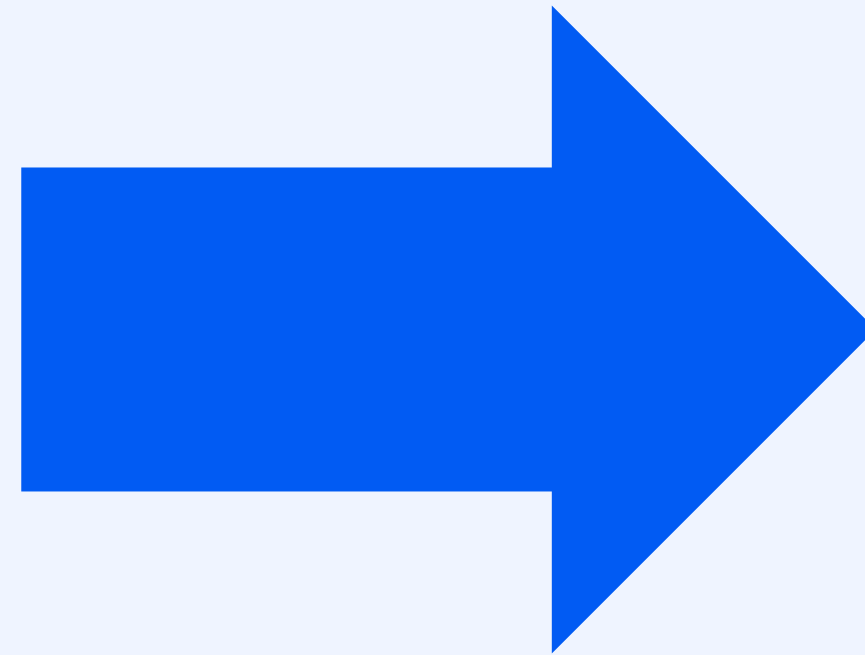
個別記録

【ALTとの交流は好きかで嫌いと答えた人】

アンケート(189人)

実施前

9人



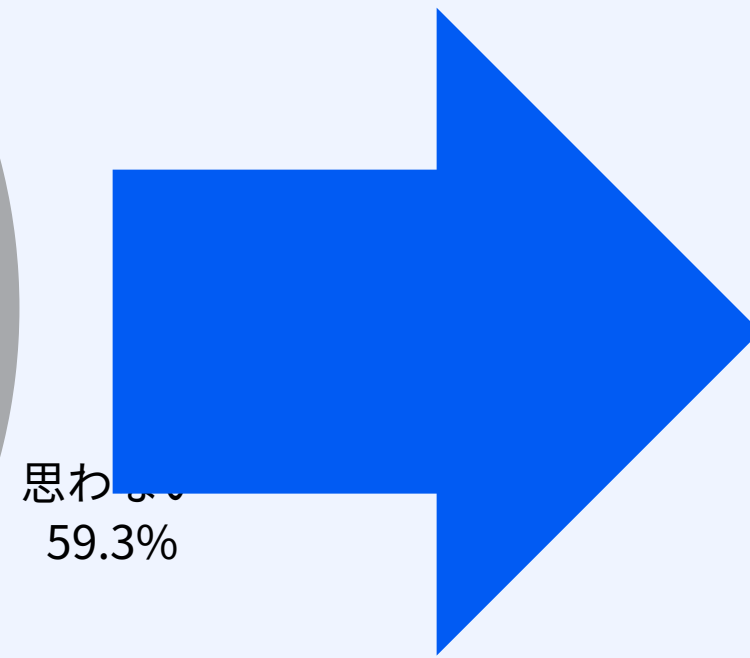
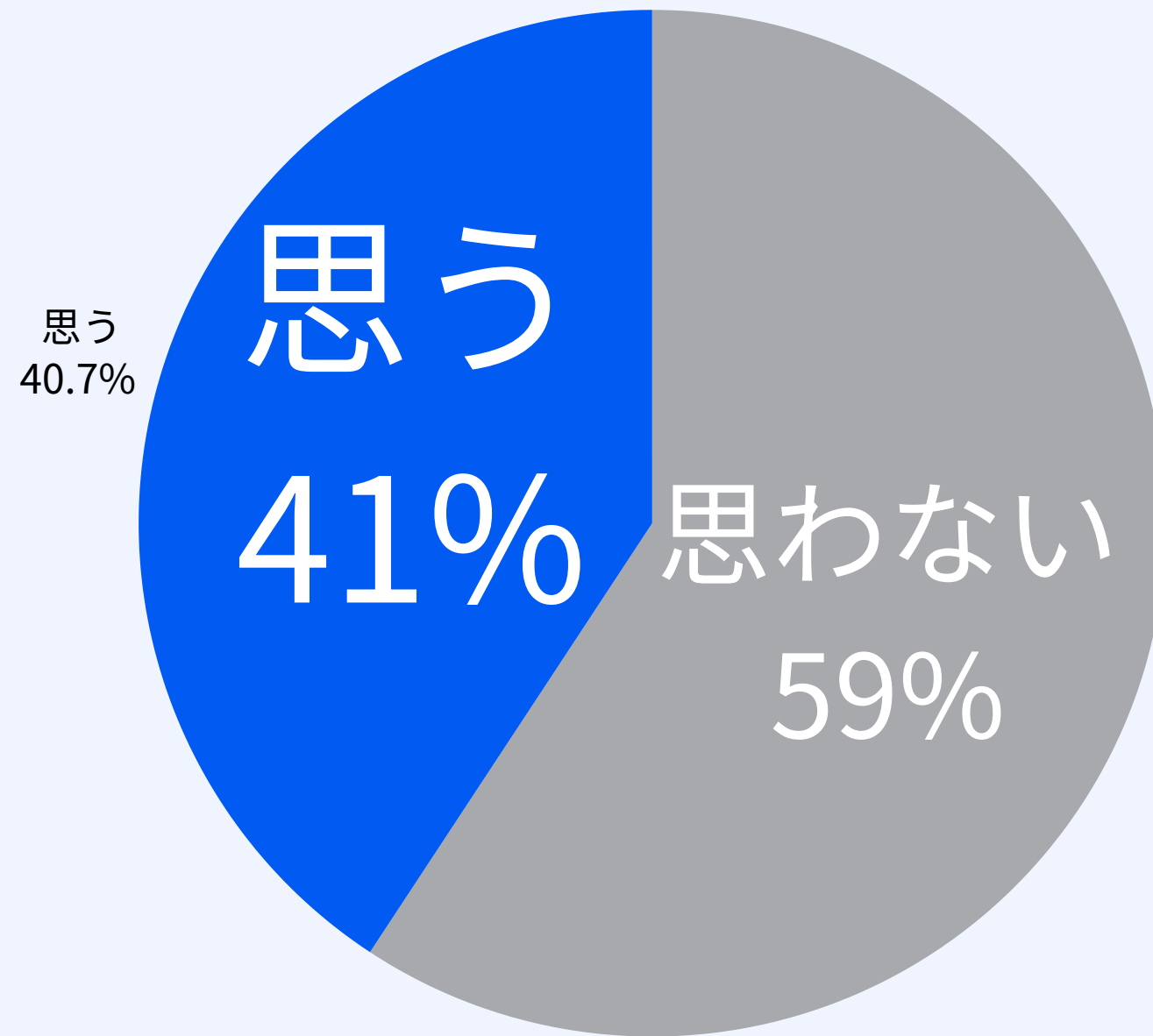
実施後

8人

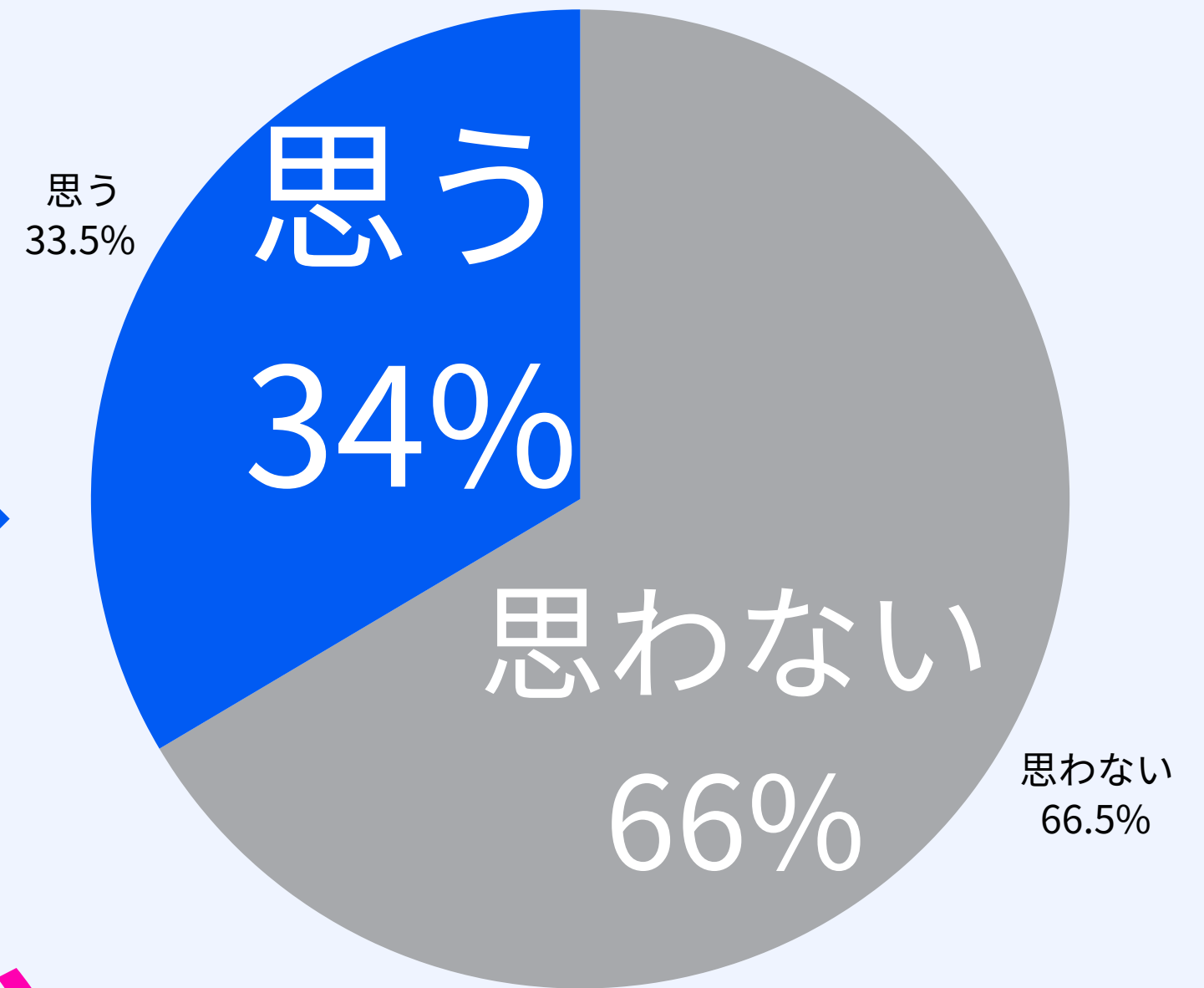
1人減少

A校

ALTと話す時不安に思いますか



7%減少



A校 実施前

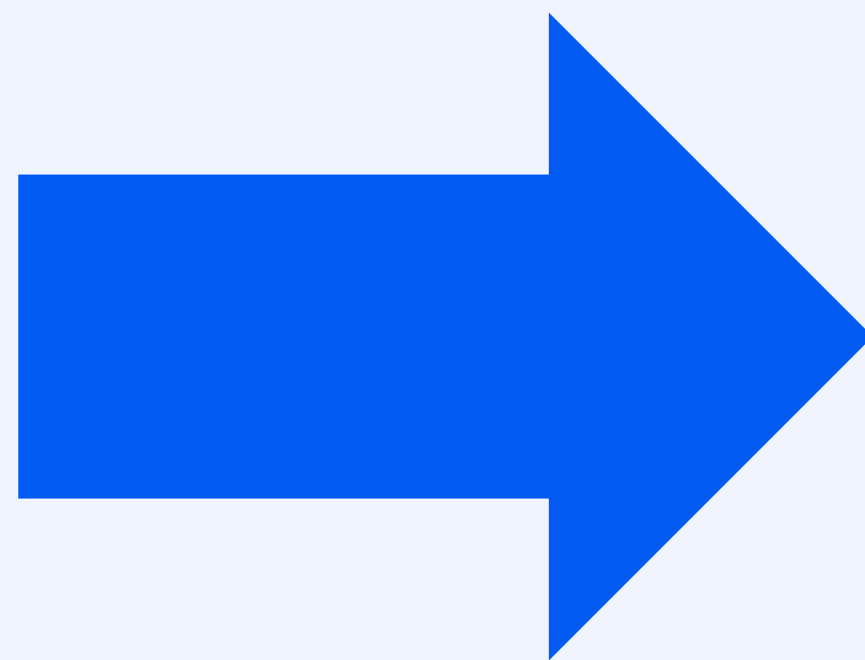
実施後

【ALTとの会話に不安を感じる児童】

アンケート(189人)

実施前

77人



実施後

60人

A校

17人減少

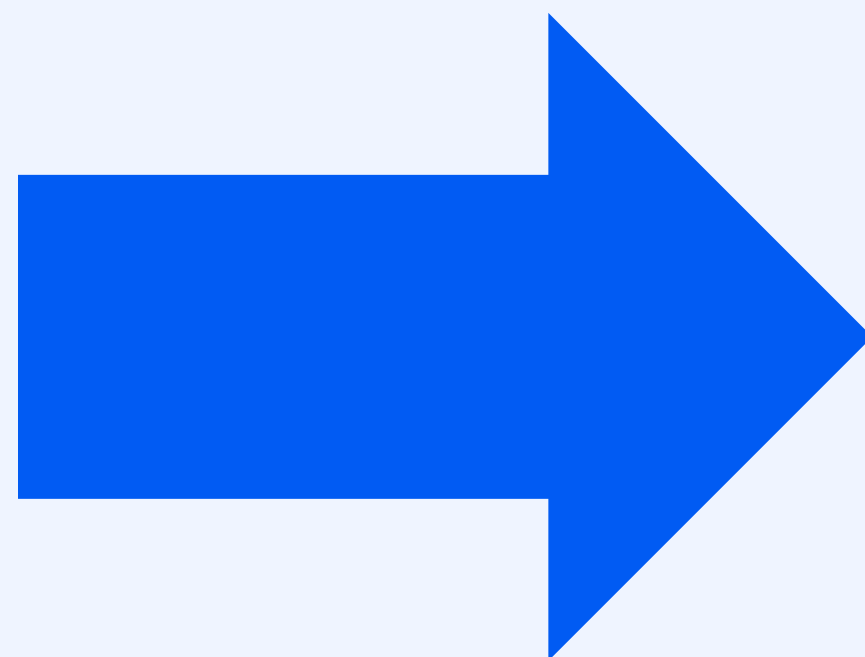
参考にならない可能性あり⇒

【英語は好きかで嫌いと答えた人】

アンケート(189人)

実施前

16人



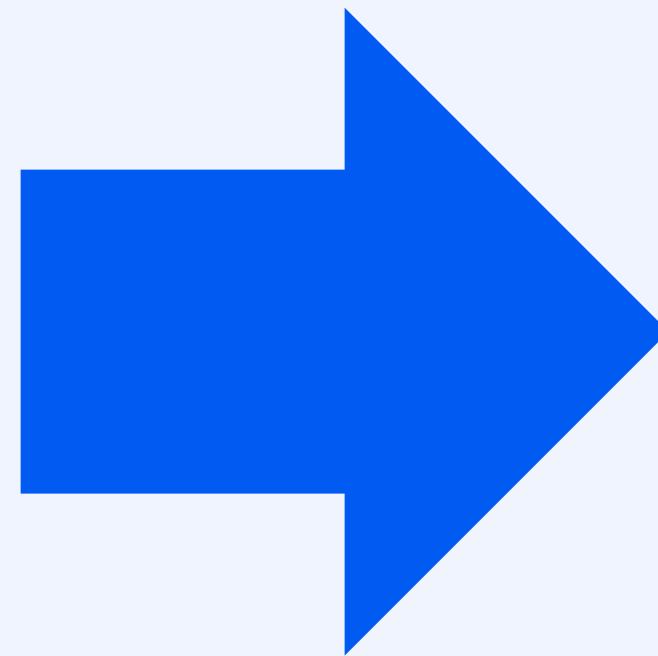
実施後

17人

A校

英語は好きですか

あまり変化なし

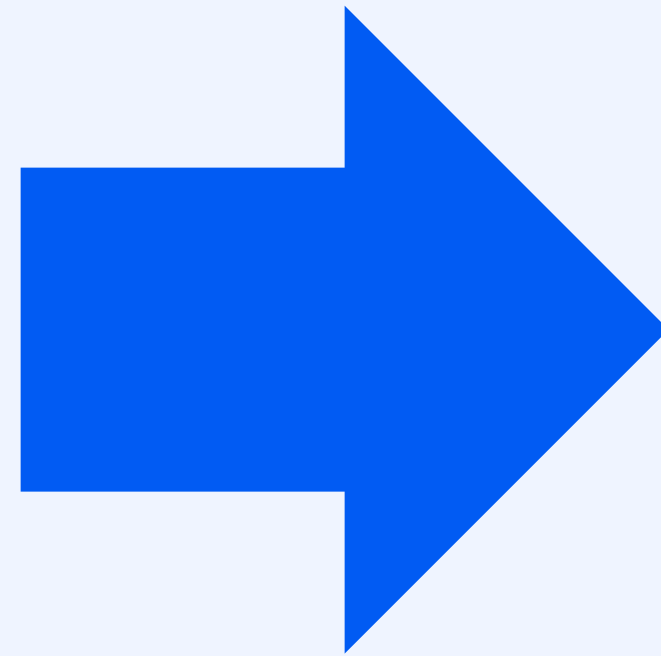


A校 実施前

実施後

ALTとの交流好きですか

あまり変化なし



A校 実施前

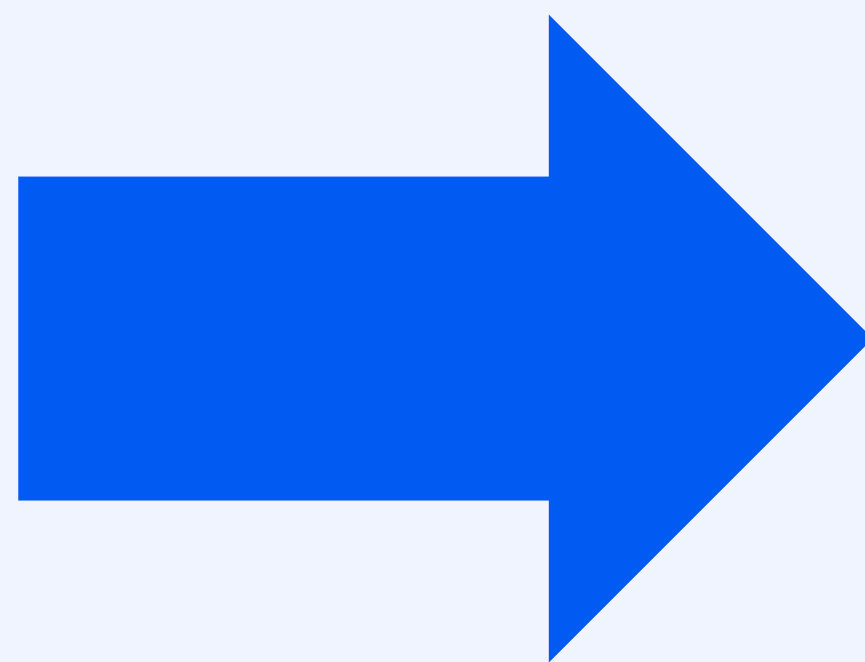
実施後

【ALTに自ら声をかけたくない児童】

アンケート(189人)

実施前

50人



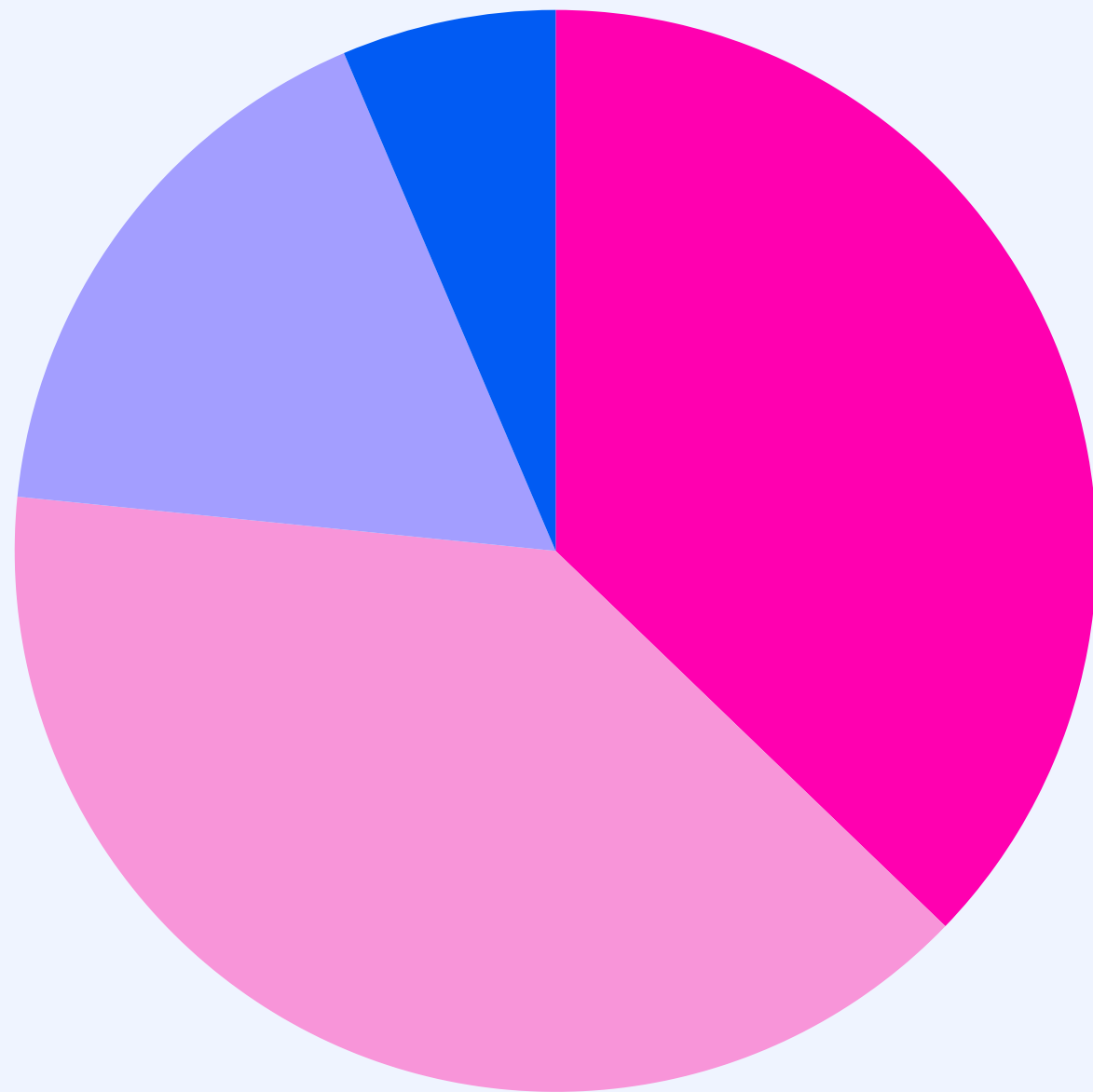
実施後

60人

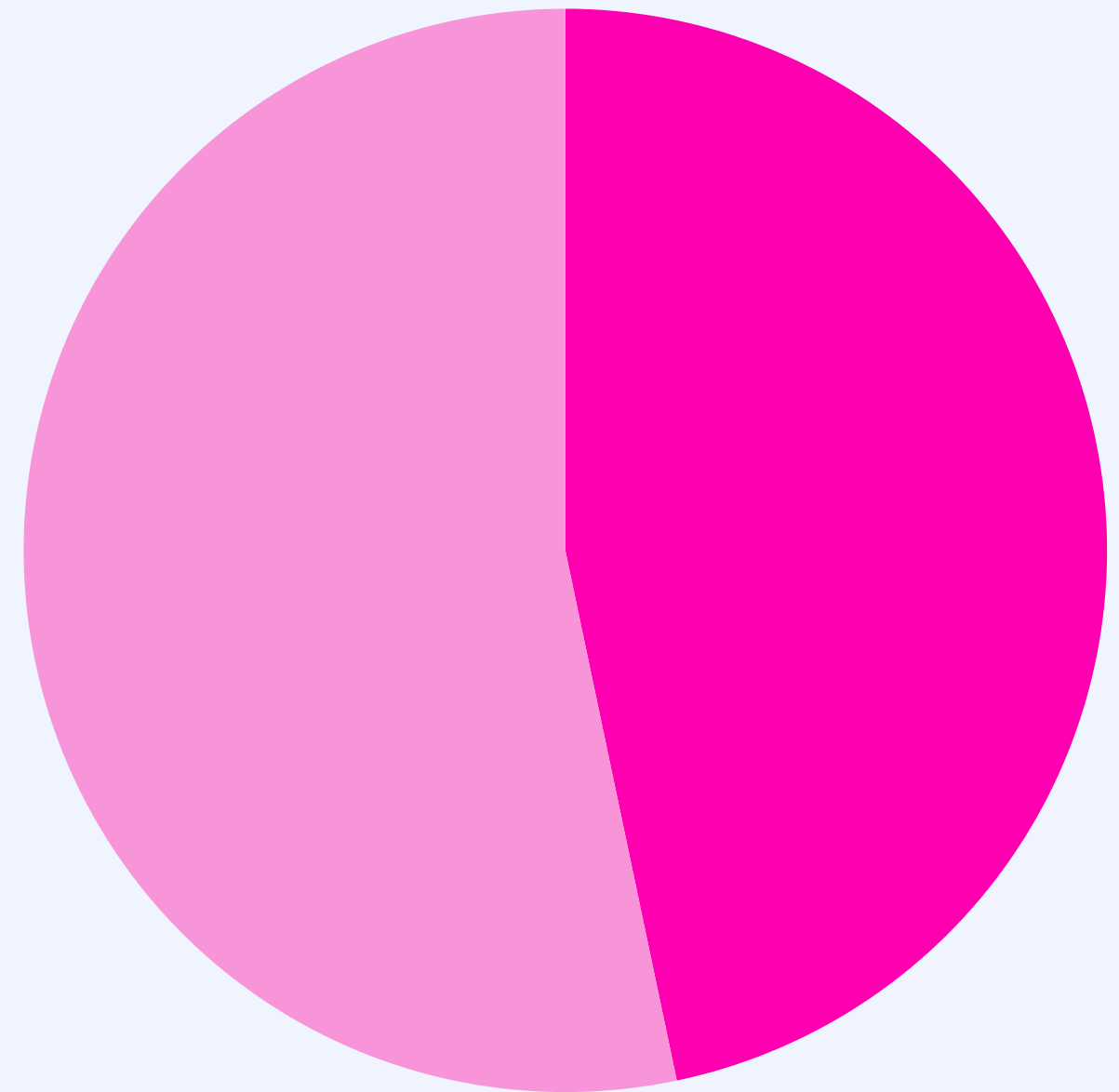
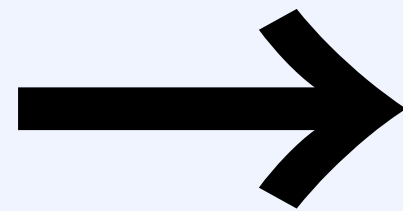
A校

B校

英語は好きですか？

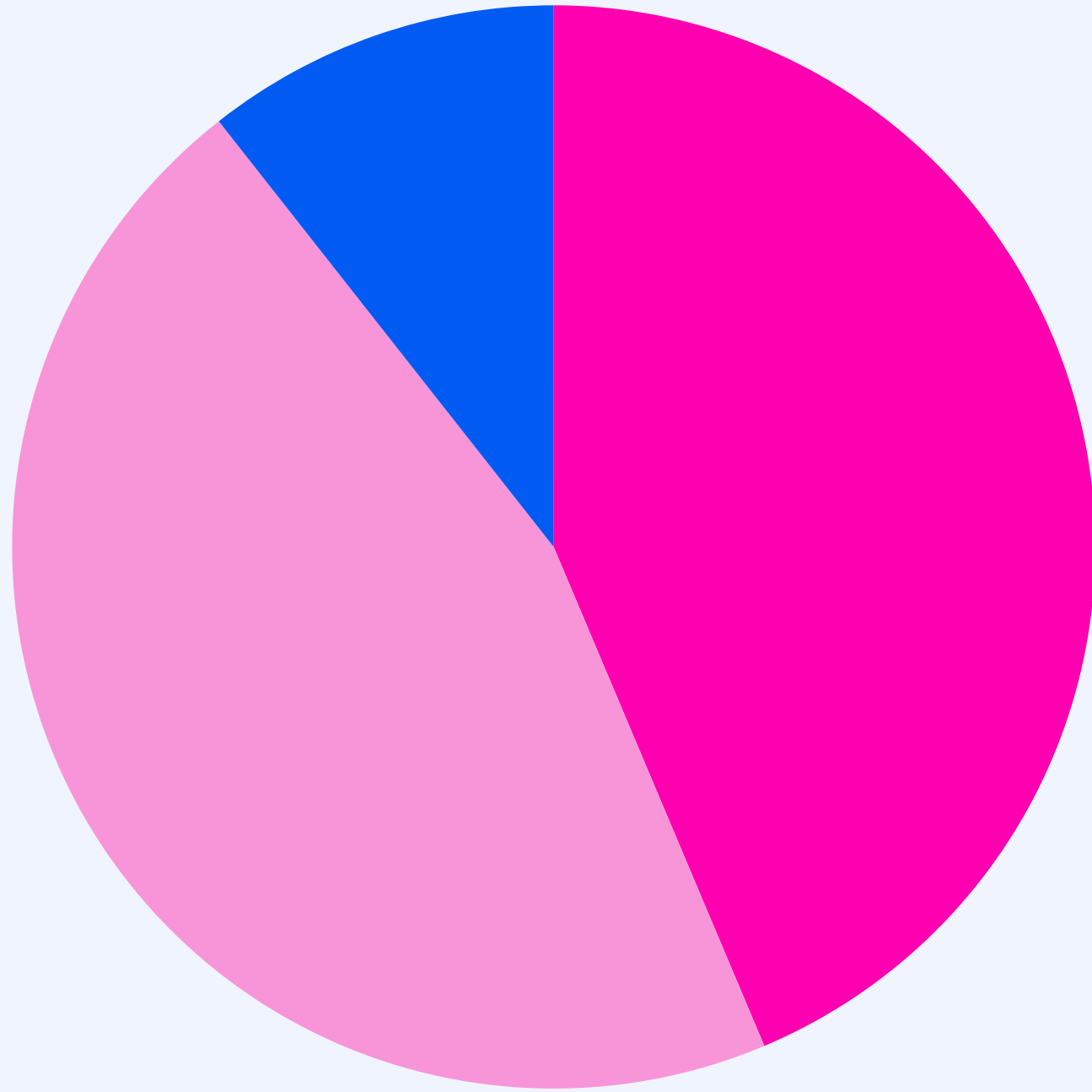


交流前

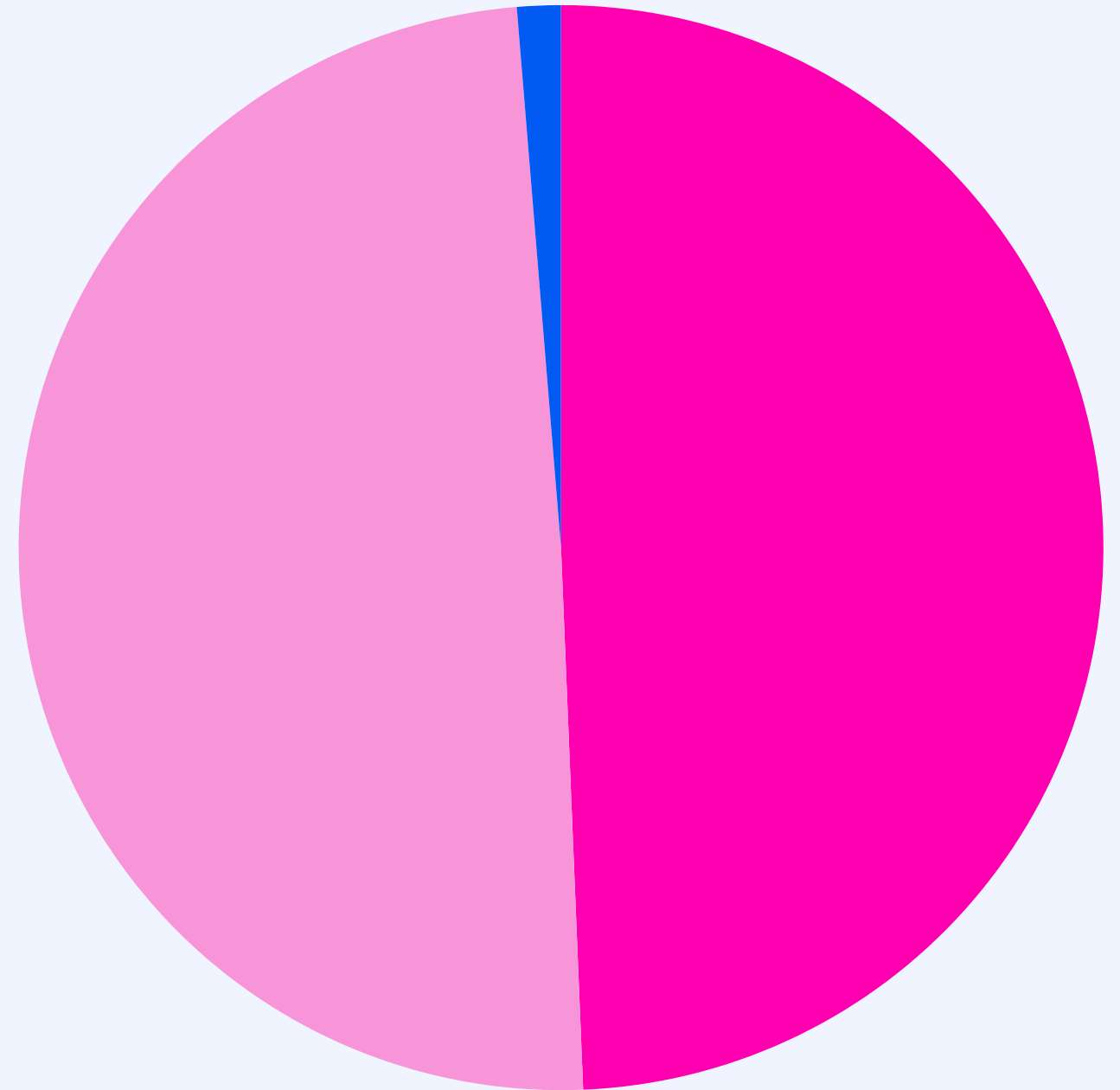
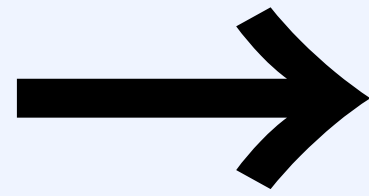


交流後

ALTと交流するのは好きですか？

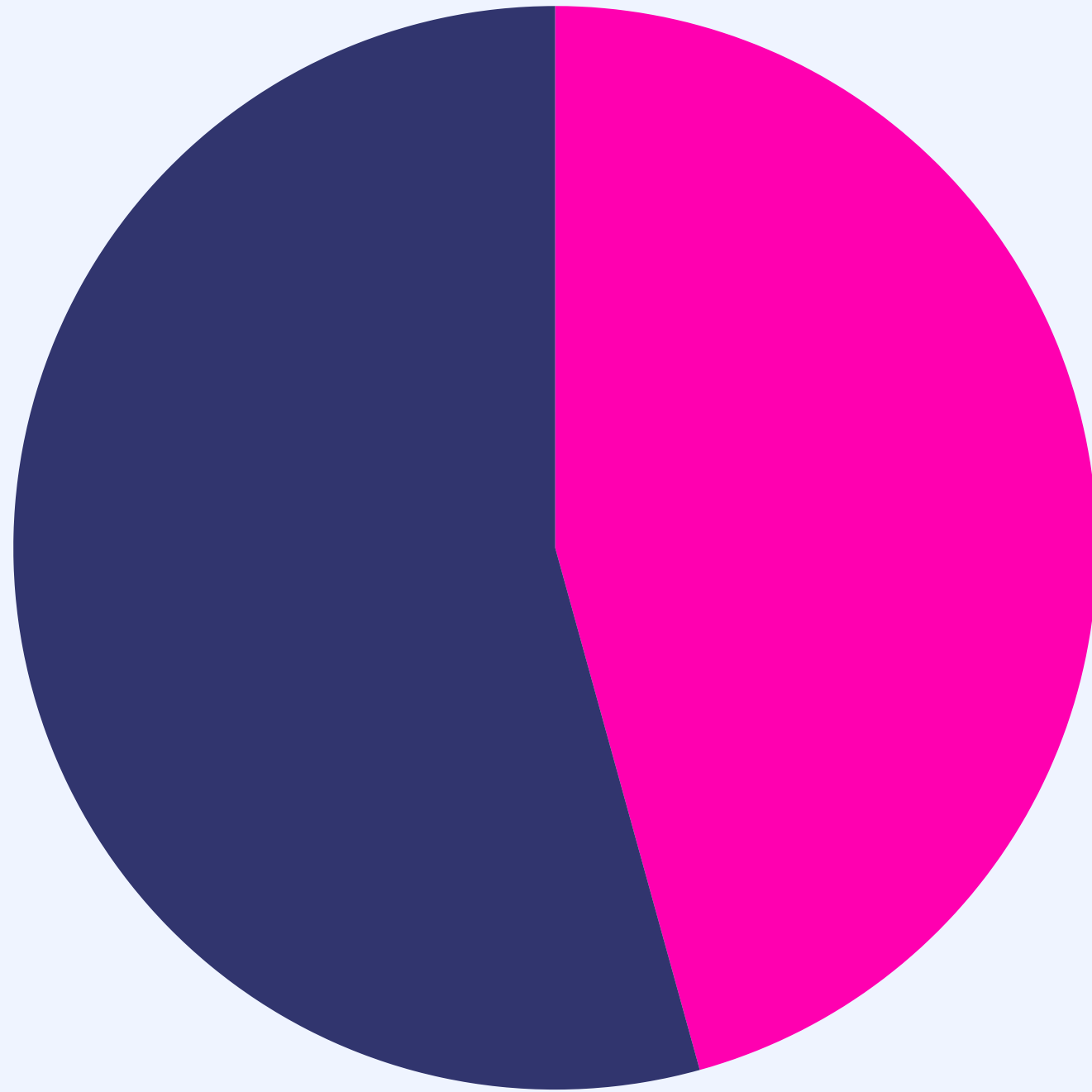


交流前

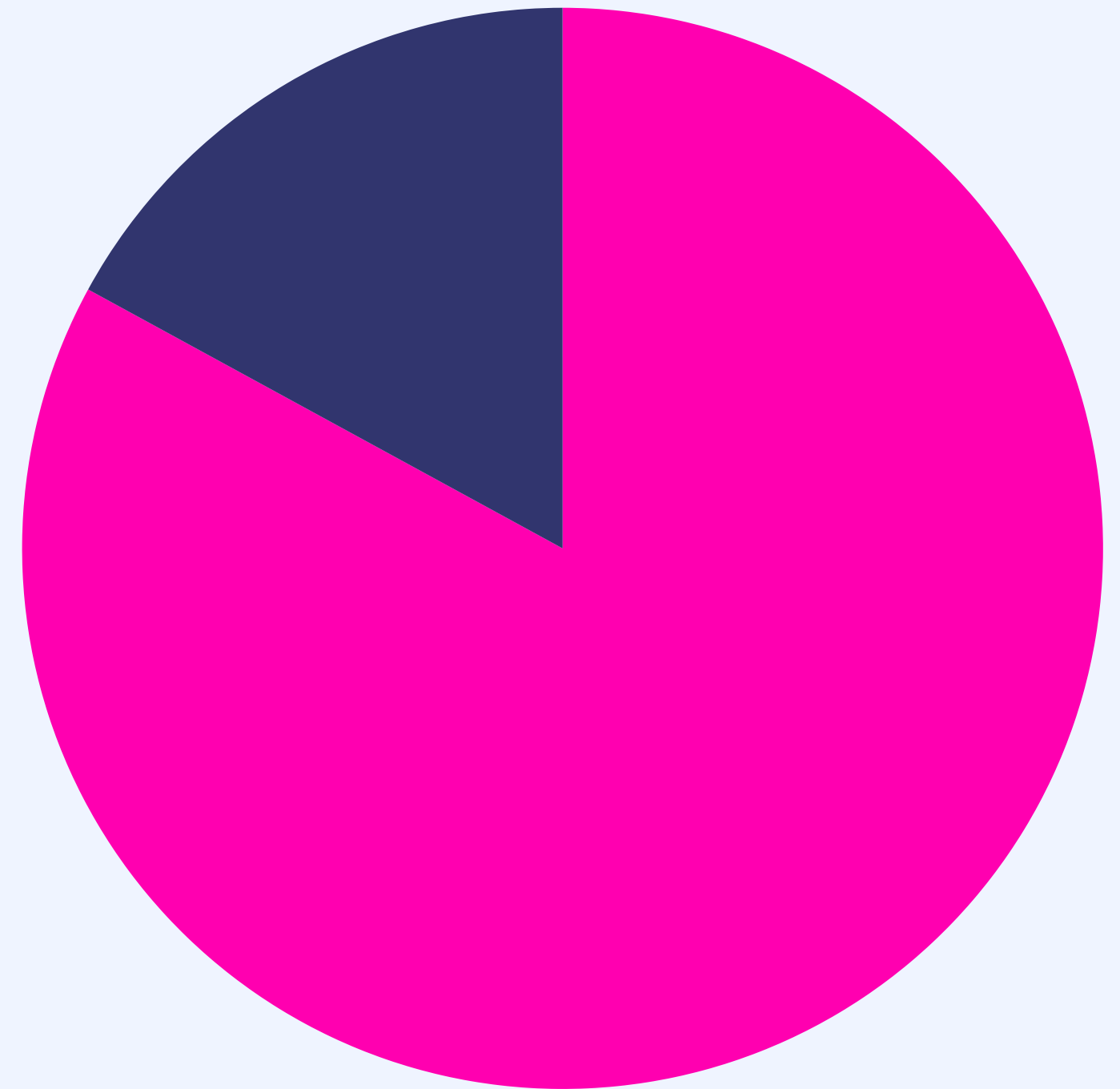
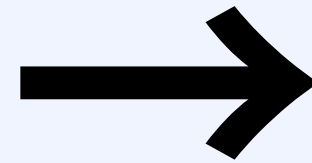


交流後

ALTと話すときに不安になりますか？

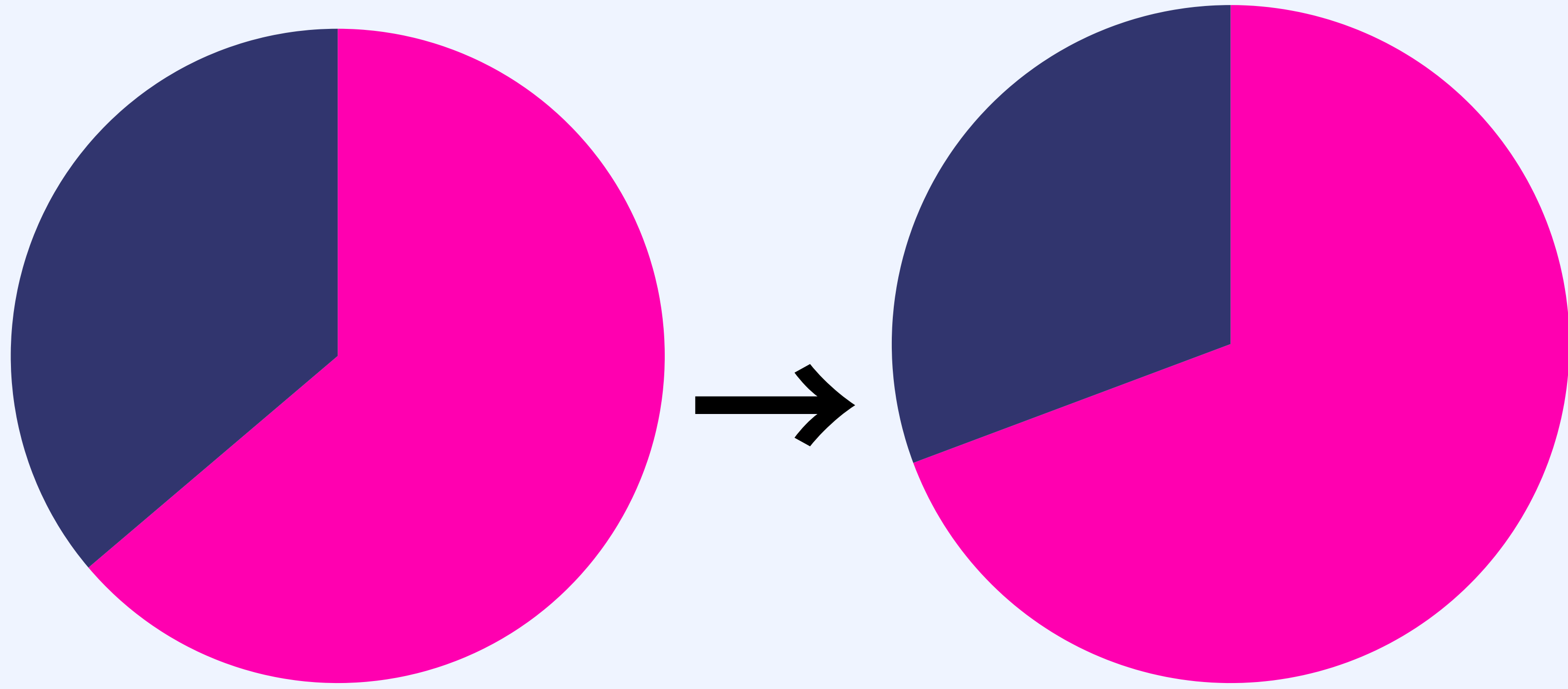


交流前



交流後

休み時間などにALTに自分から声をかけたいと思いますか？



交流前

交流後